★道徳や総合学習の授業で使える！
★交流及び共同学習で使える！
★すぐに使える指導案やワークシート・ふりかえりシート付き！

～授業で使える～

# 福祉教育プログラム集【障害編】

社会福祉法人千葉県社会福祉協議会
千葉県福祉教育推進連絡会議

# 福祉教育プログラム集＜障害編＞作成にあたって

千葉県社会福祉協議会では、学校関係者や福祉関係者等による「千葉県福祉教育推進連絡会議」を設置し、福祉教育の推進に取り組んでいます。

平成 26 年に「福祉教育ハンドブック ACCESS & SUCCESS 改訂版」を刊行後、これからの福祉教育の具体的な推進方策について検討すべく、平成 28 年に「福祉教育の新たな取り組み検討委員会」を立ち上げ、具体的な福祉教育プログラムについて検討してきました。その第 1 弾として、代表的な福祉教育プログラムを 7 つ選び、それぞれのプログラムに含まれる福祉教育的要素やポイントを確認し、福祉教育を効果的に行うためのチェックリストを作成しました。その成果は、平成 29 年に「福祉教育ハンドブック ACCESS & SUCCESS 改訂 2 版」として刊行しています。

その検討過程で、学校や地域で実際に取り組むにあたって取り組みやすいプログラム、なじみやすいプログラム作成の優先順位が高いことが指摘されました。

千葉県では平成 19 年より、近隣の小・中・高校と地区社会福祉協議会等をまとめて福祉教育推進校・福祉教育推進団体として指定する「パッケージ指定方式」による地域ぐるみの福祉教育を進めていますが、実際には学校が福祉教育実践の場となり、地域の社会資源と連携して進められていることが多いようです。そこで、今回はまず、学校を舞台にした福祉教育プログラムの作成を検討すること、疑似体験などで取り上げられることの多い障害福祉分野を取り上げてプログラム化することに限定して検討を重ねてまいりました。

委員には小中高校の教員、社会福祉施設・機関の専門家、当事者団体や家族の方々にご参加いただき、できるだけ現場の先生方にも使いやすく、子どもたちにも学びやすく、なおかつ福祉教育の視点・ポイントや我々の福祉教育の理念が反映されるように工夫してきました。

本プログラム集も、まだまだ検討余地はあります。ぜひ、皆様にご活用いただき、改善点などご意見を頂ければと思います。

平成３１年３月

千葉県福祉教育推進連絡会議
福祉教育プログラム＜障害編＞検討委員会

# 目 次


## 1　なぜ、福祉教育が必要なのでしょうか？　2

## 2　本冊子の特徴と使い方　4

## 3　福祉教育プログラムの紹介　6

### ■ 学級づくり編　～わかちあいプログラム～

① 自分とまわりの人の同じところと違うところを考えよう ……6

② わたしたちの『苦手』について考えよう ……10

③ 誰もが過ごしやすい学級・学校にしよう ～ことば編～ ……14

### ■ 障害編　～学びあいプログラム～

④ 車いすが自由に利用できる学校・教室をつくってみよう ……18

⑤ 音や声が聴こえにくい人の体験をしてみよう ……22

⑥ 目の見えない人と一緒に学習することを考えよう ……26

⑦ いろいろな人の感覚や気持ちを理解しよう ……32

### ■ 交流・体験編　～かかわりあいプログラム～

⑧ 特別支援学校（知的障害）との交流をしよう ……36

★ Pick UP 市町村社会福祉協議会による福祉教育の実践例 ……39

## 4　参考資料　44

（1）本冊子で取り上げた障害について ……44

（2）千葉県内の「キャラバン隊」一覧 ……48

（3）学校の授業で使用できる動画のご紹介 ……49

（4）福祉教育に関する相談先（市町村社会福祉協議会一覧）……50

# なぜ、福祉教育が必要なのでしょうか？

福祉教育は、人権教育を基本としつつ、一人ひとりが互いを認め合い、かかわり合いを大切にしながら「共に生きる力」を育むことを目的とした教育実践です。

今日では、学校現場のみならず、地域社会に「相手を思いやる力」や「相手の立場に立って考えることのできる力」といった「共に生きる力」を育む教育実践がその役割として求められており、大きな期待が寄せられています。福祉教育は学校や地域の中で起きている身近な社会問題をテーマとして扱っています。広く福祉を学び合い活動する中で、人間社会の根源的な諸問題について気付かせてくれる側面もあります。「老いること」や「障害があるということ」などについて考えてみることを通して「命」の大切さや「人が生きる」ことの意味についても思考が深まり多くの気付きにつながっていくのです。

子どもたちだけではなく、福祉教育にかかわる教員、保護者、当事者、住民にとっても、福祉の学びを通して「多様な生き方が受け入れられる」学校や地域、社会づくりを創造していく役割を福祉教育は担っているといえます。

## ○学校における福祉教育

現在、学校やクラスには、身近なところに障害児がいたり、貧困世帯、外国籍などの多様な児童・生徒が存在します。いじめの問題もなくなりません。このような現実に起こっている出来事に対して、仲間と共に学び合うことを通して、福祉教育は身近な人たちへの思いやりを育む契機となります。

子どもたちにとっての身近な生活課題について、「なぜ」「どうして」といった疑問を中心に学びを組み立てることで、主体的に考え、行動する力を育むことにもつながると考えられます。

これまでも「総合的な学習の時間」や「道徳」を活用した福祉教育の取り組みが進められてきました。しかし近年の学習指導要領の改訂などで、「福祉教育に取り組める時間が少ない」という声も聞きます。一方で、福祉教育は単発の授業で完結するものではありません。子どもたちに「思いやりの心」「主体的に考え、行動する力」を育む教育活動は、教科教育や道徳など、学校教育活動全般と関連付けることでより効果を発揮すると考えられます。福祉教育は、人権教育と同様、教科・領域の横断的な学びを特徴としています。

## ○地域における福祉教育が求められている背景

近年、貧困や虐待などの社会的孤立の問題が深刻化しています。そうした問題の発生を防ぐとともに、問題を深刻化させない地域づくりも課題として指摘されています。

そうした課題を解決するには、地域のあらゆる人が役割を持ち、「支える側」「支えられる側」としてではなく、支え合いながら自分らしく活躍できる地域コミュニティづくりを目指すことが重要となります。地域の課題を「他人事」ではなく「自分の問題」としてとらえるため、住民を主体とした「学び」と「参加」がより重要となってくるのです。こうした状況で、厚生労働省も「我が事・丸ごと地域共生社会の創造」をスローガンとして掲げているところです。

また、障害の有無に関係なく、すべての人に等しく人権が保障され、社会参加を進めることを求めて、

2013 年に「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」（いわゆる「障害者差別解消法」）が制定されました。この法律では、障害を理由とした差別や排除を取り除くために必要な配慮や支援を行うこと（合理的配慮）がなされないことが「差別」であるとされ、改めて「差別とは何か」「共生とは何か」を考えさせられるよい機会となりました。

社会的孤立や差別をなくし、誰もが安心してその人らしく暮らせる地域社会を実現するには、ますます地域住民の理解・協力と主体的参加によるまちづくりが求められ、その推進方法として福祉教育の役割がいっそう重要になっているといえます。

## ○学校と地域でつくる福祉教育へ

学校での福祉の学びは、子どもたち一人ひとりに、お互いを尊重すること、一緒に考え行動していくことの意味を考えさせる「種まき」に相当します。さらに福祉教育は、学校の中だけで完結するのではなく、地域に存在している具体的な福祉課題に気づき、考え、行動できる担い手の育成も目指しています。そのためには、地域で福祉活動をしている団体や個人と連携して、福祉の学びを自分たちの生活に結び付けていくプロセスが重要です。

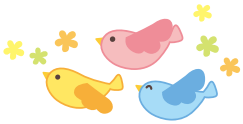
近年、社会関係の希薄化とともに、家庭や地域の教育力や福祉力も低下してきているといわれています。学校や地域、子ども・大人・当事者が一緒になって、地域の福祉課題を共有し解決策を見出していかなければならないのです。そのプロセスにおいて、地域住民としての連帯感が強まり、「福祉でまちづくり」を行う担い手となるのです。

## ○「共に生きる」、それは福祉の文化

共生の文化は、かかわり合う、共に生きる、活動することによって醸成されてくるものです。分断ではなく、繋がりあう社会（ソーシャルインクルージョン）こそが豊かな社会なのです。矛盾や葛藤をなくすことではなく、悩み、話し合いながら、自分たちなりの解決策を考えていくプロセスこそが福祉教育で最も大事にしているポイントです。私たちの社会が福祉教育を通して、「福祉の文化」＝「様々な人が共に生活する社会があたりまえという状態」に結実していくことを願っています。

知的障害のある子が描いた絵（市川手をつなぐ親の会提供）

# 本冊子の特徴と使い方



## ★特徴１　発達段階に合わせてアレンジ自由

本冊子に掲載したプログラムは、小学５年生程度を対象に作成していますが、中学生・高校生向けのプログラムとしても発展させることができます。

## ★特徴２　８つのプログラムを３段階で発展的に学べる

＜学級づくり編　～わかちあいプログラム～＞では、福祉を学ぶ基盤づくりをイメージしています。子どもたちが身近な友達と自分との違いを考え、認めていくところからはじまり、多様な考えを持つみんなでもお互いが気持ち良く過ごせる学校とは何かを考えます。

＜障害編　～学びあいプログラム～＞では、様々な障害について体験的に学べるよう工夫しています。障害のある人と、どのような工夫や配慮があれば一緒に生活できるのかを考えます。

＜交流・体験編　～かかわりあいプログラム～＞では、普段接する機会が少ない、特別支援学校の児童・生徒との交流を通して、地域には様々な人が暮らしていることを学びます。

さらに、地域とつながる福祉教育の実践例として、市町村社会福祉協議会の取り組みを紹介しています。

### 基礎

●学級づくり編　～わかちあいプログラム～

**テーマ①**
「自分とまわりの人の同じところと違うところを考えよう」p.6
- 自己理解と他者理解を深める
- 自分と他者には同じところと違うところがあること、違っても良いことを知る
- 他者のことを受け止められるようになる

→

**テーマ②**
「わたしたちの『苦手』について考えよう」p.10
- 自己理解と他者理解を深める
- 誰にでも苦手なことがあること、それらは人によって異なることを知る
- 苦手なことの中には克服が難しい理由がある場合や、克服する必要がないことがあることを理解する

→

**テーマ③**
「誰もが過ごしやすい学級・学校にしよう～ことば編～」p.14
- 学校にある不便さや不快、不安に気づき、改善案を考える
- 身近に困っている人がいることや、人によって便利／不便などの感じ方が違うことがあると気づく
- 自分たちの力でより良くしていけることに気づく

※必ずしもこの順序で実施する必要はありませんが、発展プログラムの実施には以下のような配慮が必要です。
・学級の雰囲気を考慮する　・学級に特別なニーズのある児童がいる場合は特に、差別を生まないか事前に検討する
・特別なニーズのある児童の自己理解、障害受容などの状態を把握した上で、保護者の了解も得ながら進める
・否定的な意見が児童から出された場合にどう展開するか、計画を立てておく

### ★特徴３　プログラムの選択や組み合わせは自由

体系的に障害者の理解が進むように、段階的にプログラムを配置していますが、それぞれのプログラムは単独でも使用できるように作成していますので、カリキュラムに合わせてプログラムの選択や組み合わせができます。

### ★特徴４　「ワークシート」や「ふりかえりシート」が使える

各プログラムには、指導案に合わせてワークシートやふりかえりシートを用意しました。子どもたちの気づきや考えを、ワークシートやふりかえりシートに記入し、他者と共有することで、更に学びを深めることが期待できます。また、シートをもとにフィードバックしたり、話し合いを行うなど、発展的な学習にも活用できます。

### ★特徴５　福祉教育を日常の学びに

プログラムは単独で使用することはできますが、一連のカリキュラムの流れに位置付けることは重要です。そのため授業の冒頭では、その前の時間に学んだ内容の振り返りを行い、その時間の内容につなげるように指導案を作成しています。例えば、「先日運動会の種目について話し合いましたが、今日は、運動会に車いすを利用している方が来たらどうしようか考えましょう」など、通常の授業や教育活動、日常生活に結びつける工夫を意識してください。

発展

**●障害編　～学びあいプログラム～**

テーマ④
「車いすが自由に利用できる学校･教室をつくってみよう」p.18
テーマ⑤
「音や声が聴こえにくい人の体験をしてみよう」p.22
テーマ⑥
「目の見えない人と一緒に学習することを考えよう」p.26
テーマ⑦
「いろいろな人の感覚や気持ちを理解しよう」p.32
・障害のある人や、様々な感覚を過敏に感じる人はどのようなことに困るのか、どのようなことに困らないのか考えてみる
・障害のある人とのコミュニケーションの取り方にはどのような方法があるのか、体験を通して学ぶ
・困ることを軽減するための方法を考え、実行する
・伝え合うこと、共に生きることの意味を考える

**●交流・体験編**
**～かかわりあいプログラム～**

テーマ⑧
「特別支援学校（知的障害）との交流をしよう」p.36
・地域には様々な人がいること、共に暮らすことは普通のことだと気づく
・特別支援学校の児童が共に生きる存在であることに気づく

※知的障害以外の特別支援学校や、高齢者施設との交流にすることもできます。

その他、市町村社会福祉協議会も学校で様々な福祉教育を行っています。p.39

# テーマ① 「自分とまわりの人の同じところと違うところを考えよう」

## テーマについて

子どもたちが自分と友達について好きなこと等を比べることで、自分と友達に対しての理解を深めるとともに、友達同士であっても同じところと違うところがあることを知るためのプログラムです。

「みんなと違う」ことは子どもたちにとって時に否定的に受け止められがちですが、誰にでも違いがあること、違っていても良いことを理解してもらうことを目指しています。

## 目標（ねらい）

・自分と他者の同じところと違うところに気づき、友達のことを受け止めることができる。
・このことで、障害のある人を受け止める心の土台をつくる。

| 配時 | 学習内容と学習活動 | 指導上の留意点 |
|---|---|---|
| 導入<br>(5分) | **1　前時のふりかえり**<br>※日常の授業や日頃クラスで取り組んでいることなどからつなげてください。<br><br>**2　本時のテーマと目標を説明する**<br>「今日は、ワークシートを使って、自分とクラスの友達の、同じところと違うところ探しをしてみましょう。」 | ○導入として前時の流れを簡潔に説明する。<br>例）差別やいじめなどを受けた人の体験談を国語や道徳等で取り上げたり、学級の実態について触れたりする。<br>○本時のテーマや目標をきちんと説明する。 |
| 展開<br>(15分) | **3　ワークシートを記載する時間を設ける**<br>・ワークシートの１番の自分の欄を記入する。<br>・児童がペアになってインタビューをし、友達の欄も埋め、ワークシートにまとめる。<br>・ワークシートの２番、３番についても記入する。 | ○時間がなければ、自分の欄は事前に書かせておいても良い。<br>○別の班同士で組ませるなど、普段あまり話さない児童同士で組ませると、児童が多くの気付きを得る可能性が高まる。<br>○同性で組むか異性で組むかはクラスの雰囲気によって判断する。 |
| (10分) | **4　ワークシートにまとめた結果を共有する**<br>・結果について、発表する。 | ○班になって報告し合う形でも良い。 |
| (10分) | **5　同じところと違うところ探しをしてみた感想の発表をする**<br>（想定される児童の反応）<br>★友達と同じところがたくさんあって嬉しい。<br>★友達でも自分と違うところがたくさんある。 | ○同じ部分を肯定的に捉える意見ばかりに偏らないように配慮する。<br>○違いについて否定的な意見（違うところばかりで残念だった、等）が出た時には、意見は受け止めたうえで、自分と違う中にも |

| | | |
|---|---|---|
| | ★自分はこれが嫌い（苦手）なのに友達は好き（得意）だからすごい。 | 「いいな」と思ったところ等がなかったか問いかけ「違うところの良さ」にも目を向けさせる。 |
| まとめ<br>(5分) | **6　まとめを行う**<br>「友達同士でも、同じところもたくさんあるけれど、違うところもたくさんあることが分かりましたね。世の中には、自分と好きなものや嫌いなものが違う人、得意なことや苦手なことが違う人がたくさんいます。<br>　人それぞれ違うからこそ、それぞれの人のすごいところや素敵なところもたくさん生まれるのですね。」 | ○違いがあることは決して悪いことではないことを児童に伝える。 |
| | **7　ふりかえりシートを書く時間を設ける** | ○時間の都合上、ふりかえりシートの１番は授業中に記載し、２番は宿題にする。<br>（２番で比較する対象は、家族や先生、近所の人などを想定しています。） |

## ワンポイントメモ

○友達同士でも「好き嫌い」や「得意不得意」をはじめとする様々なことで違いがあるのは当然のことです。発展プログラムでは障害について学びますが、「歩けるかどうか」「耳が聴こえるかどうか」なども人それぞれ異なり、当然であると受け止める土台づくりとしてこのプログラムを活用することができます。

知的障害のある子が描いた絵（市川手をつなぐ親の会提供）

## ワークシート「わたしと友達の同じところと違うところ」

年　　組　　番　　氏名

1．友達にインタビューして、表を完成させましょう。

| | 自分 | 友達（名前：　　） |
|---|---|---|
| ①誕生日 | | |
| ②住んでいる場所 | | |
| ③趣味 | （理由） | （理由） |
| ④好きなテレビ番組 | （理由） | （理由） |
| ⑤好きなかっこう | （理由） | （理由） |
| ⑥最近うれしかったこと | （理由） | （理由） |
| ⑦好きな教科 | （理由） | （理由） |
| ⑧苦手な教科 | （理由） | （理由） |
| ⑨好きなこと | （理由） | （理由） |
| ⑩苦手なこと | （理由） | （理由） |

2．自分と友達の、同じところはどこでしたか？　その理由を聞いてどう思いましたか？

3．自分と友達の、違うところはどこでしたか？　その理由を聞いてどう思いましたか？

ふりかえりシート **「わたしと友達の同じところと違うところ」**

年　　組　　番　　氏名

1．授業を受けて、感じたことを書きましょう。

2．あなたのまわりには、クラスの友達以外にどんな人たちがいますか？　また、その人たちのあなたと違うところ、すごいところはどんなところですか？　思いつくだけ書いてみましょう。

| だれ？ | あなたと違うところ | すごいところ |
|---|---|---|
| ① | | |
| ② | | |
| ③ | | |
| ④ | | |
| ⑤ | | |

# テーマ② 「わたしたちの『苦手』について考えよう」

## テーマについて

誰しもが持っている「苦手なこと」について取り上げ、苦手と感じることは人それぞれであり、また苦手とする背景も人それぞれであることを伝えるためのプログラムです。

学校では、勉強や運動などの苦手なことを努力してできるように指導しますが、苦手なものの中には努力してはいけないもの（病気やアレルギーなど）、努力してもできないもの（障害など）も存在します。このプログラムは、児童がそうした人それぞれの事情を考え、思いやりを持てるようになることを目指しています。

## 目標（ねらい）

自分と他者の苦手なことに焦点を当て、苦手・できないものの中には克服が難しい理由がある場合や、克服する必要がない場合があることを理解できる。

| 配時 | 学習内容と学習活動 | 指導上の留意点 |
|---|---|---|
| 導入<br>（3分） | **1　前時のふりかえり**<br>**2　本時のテーマと目標を説明する**<br>「みなさんには、得意なこともあれば、苦手なこともありますよね。得意なことは良く考えるけれど、苦手なことはあまり考えたくないものです。今日は、いつも避けてしまうことが多い『苦手』について、みんなで考えてみましょう。」 | ○前時の流れを簡潔に説明する。<br>例）努力した人や、反対に挫折を経験した人の体験談を国語や道徳等で取り上げる。<br><br>○本時のテーマや目標をきちんと説明する。 |
| 展開<br>（15分） | **3　ワークシートで自分の苦手・他者の苦手について考える**<br>・ワークシートの１番を記載する。<br>・「得意」に○が多い児童は、ワークシートのフリースペースに、自分が苦手なことを書き足す。<br>・記載できたら、友達同士で結果を見せ合う。<br>・見せ合った感想を、ワークシートの２番に記載する。 | ○「得意か苦手か選べない」という児童がいたら、「あえて言うなら」で選んで良いことを伝える。<br>○得意・苦手な理由が言葉で説明できない場合は、無理に記載させなくて良い。<br>○友達同士で結果を見せる際には、複数人の結果を見ることができるようにする。 |
| （5分） | **4　全体で共有する**<br>・ワークシートの２番に記載した内容を発表する。<br>（想定される児童の反応）<br>★みんな得意・苦手なことがばらばらだった。<br>★同じような結果の友達がいて嬉しい。<br>★得意・苦手なことが同じでも、理由がばらばらだった。<br>★どうして得意・苦手なのか、理由が自分で分からないこともある。 | ○要点を板書する。 |
| （10分） | **5　「苦手」の理由を聞かれた時の気持ち、対応の仕方を考える**<br>「自分が『苦手』なところを『どうしてできないの』と聞かれたらどう答えますか？またどのような気持ちになりますか？」<br>・ワークシートの３番に記入する。<br>★どうしてよいのかわからない。<br>★自分でもどうしてできないのかわからない。<br>★悲しい。 | ○自分の苦手なところについて、「どうしてできないのか」という理由を聞かれた場合の気持ちや対応を考えてみる。<br>○自分でもどうしてなのかわからない、どうしようもないことがあるということに気付かせる。<br>○自分だったら、どのような言葉や態度をし |

| | | |
|---|---|---|
| | 「また、苦手なこと、得意でないことに対して、お友達にどのような声掛けをしてもらえるとうれしいですか？」<br>・ワークシートの４番に記入する。<br>★ゆっくりやればいいよ。<br>★無理をしなくてもいいよ。<br>★一緒に頑張ろうか、手伝おうか。 | てもらえるとうれしいかを考えることで、相手の気持ちを考えさせることにつなげる。 |
| (7分) | **6　克服しなくて良い・するべきでない苦手について考える**<br>「『なぜできないの』と聞かれた時の気持ちや、逆に励ましてもらった時のうれしい気持ちについて考えることができましたね。」<br>「苦手なことについては、皆さんと全然違う理由で苦手なことがある人もいます。理由によっては苦手なままでいい時もあります。」<br>「では、苦手なことをできるようにならなくても良いのは、どんな理由がある時だと思いますか。」<br>★アレルギーや病気や障害が理由の時。<br>★すごく頑張ったけれどできなかった時。<br>★できなくても困らない時。<br>★他の方法を使えばいい時。<br>★できなくていいと言われた時。 | ○挙手で児童に発表してもらい、黒板に板書する。<br>○児童が回答に困っているようであれば、「虫が苦手な人は、絶対に虫が得意にならなければいけないですか？」「例えば車いすを使っている人も、逆上がりが苦手な人が多いかもしれないですね」等、助言する。 |
| まとめ<br>(5分) | **7　まとめをする**<br>「人それぞれ、得意なこと・苦手なことは違うこと、その理由も様々であることが分かりましたね。<br>　頑張れば苦手でなくなることならば、努力して、苦手をなくすことはとてもすばらしいことです。でも、理由によっては頑張ってはいけない苦手なことや、頑張らなくてもいい苦手なこともあります。<br>　自分が普通にできることが苦手な友達がいたら、どうしてできないんだろう？どうしてもっと頑張らないんだろう？と思ってしまうかもしれません。でも、その友達にもできない理由があるかもしれません。<br>　できないことを責めたりするのではなくて、お互いに思いやりの気持ちを持って、生活していきましょう。」 | ○苦手、できないことの中には克服しようとしてはいけない・克服が容易でない理由があるものもあることを伝える。 |
| | **8　ふりかえりシートに記載する時間を設ける** | ○ふりかえりシートの２番は、時間がなければ宿題とする。 |

## ワンポイントメモ

○障害のある方と接すると「自分たちにできることができない人がいる」場面に多く出会うことになります。その際、できないことをマイナスに捉えずにその理由・背景を考え、自分たちにできることを考えていく第一歩としてこのプログラムを活用することができます。

○また、発達障害などで授業中に大きな声をあげてしまったり、クラス内を動き回ってしまう児童がいる場合、その児童にとって静かに授業を受けることは大変労力を要することが他の児童には想像しにくく、理解が得られにくいものです。そうしたクラスメイトの事情に思いを寄せるきっかけとして活用いただくこともできます。

## ワークシート「わたしたちの『苦手』について考えよう」

年　　組　　番　　氏名

1．下の８つのことがらが、あなたは得意ですか、苦手ですか。
　一番当てはまる番号に丸をして、その理由を書いてください。

| ことがら | 当てはまる番号に〇 | その理由 |
|---|---|---|
| 漢字を覚える | 1　得意<br>2　どちらでもない<br>3　苦手 | |
| 逆上がり | 1　得意<br>2　どちらでもない<br>3　苦手 | |
| ピアノをひく | 1　得意<br>2　どちらでもない<br>3　苦手 | |
| 授業中に静かにする | 1　得意<br>2　どちらでもない<br>3　苦手 | |
| 給食を残さず食べる | 1　得意<br>2　どちらでもない<br>3　苦手 | |
| 初めて会った人と話す | 1　得意<br>2　どちらでもない<br>3　苦手 | |
| 忘れ物をしない | 1　得意<br>2　どちらでもない<br>3　苦手 | |
| 虫をさわる | 1　得意<br>2　どちらでもない<br>3　苦手 | |
| | 1　得意<br>2　どちらでもない<br>3　苦手 | |
| | 1　得意<br>2　どちらでもない<br>3　苦手 | |

2．書いた結果を友達と見比べて、気付いたことや感想を書きましょう。

3.「どうして苦手なの？」と聞かれたら、どのように答えますか。またどのような気持ちになりますか。

4．苦手なことに対して、どのような声かけをしてもらえるとうれしいですか。

## ふりかえりシート「わたしたちの『苦手』について考えよう」

年　　組　　番　　氏名

1．授業を受けて、感じたことを書きましょう。

2．あなたの友達が「どうしても苦手で食べられない食べ物がある。食べられるようにしないといけないの？」と言っていたらどうしますか。思ったことを書きましょう。

# テーマ③「誰もが過ごしやすい学級・学校にしよう～ことば編～」

## テーマについて

どの児童にとっても、より過ごしやすく快適な学級・学校づくりに参加することで、身近に困っている人がいることや、感じ方は人によって違うことに気付くためのプログラムです。自分たちの力で身近な環境をより良くしていけることを実感してほしいと考えています。

また、本時の学びが多様性の理解、よりよい地域や社会づくりへの貢献に広がっていくことを期待します。

## 目標（ねらい）

・自分や他の児童にとって、快適に過ごすことを阻害している要因（本時の例では“ことば”）に気づくことができる。
・自らの行動上の改善案を考えることができる。

| 配時 | 学習内容と学習活動 | 指導上の留意点 |
|---|---|---|
| 導入<br>(5分) | **1　前時のふりかえり**<br>**2　本時のテーマと目標を説明する**<br>「今日は、みんなが学校で気持ちよく過ごすための“ことば”について考えます。」<br>「皆さんは、相手の気持ちを傷つけない言い方や言葉づかいを学んできましたね。どんなものがありましたか？」<br>（想定される児童の反応）<br>★ふわふわ言葉とちくちく言葉。<br>★人が嫌がることは言わない。<br>「そうですね。今日は、ちょっとレベルアップした“ことば”について取り上げます。」 | ○前時の流れを簡潔に説明する。<br>例）道徳で友達とのより良い関わり方について学ぶ、学級活動でクラスの約束事を決める。<br><br>○意欲を高めるため、レベルアップすることを伝える。 |
| 展開<br>(15分) | **3　『早くして』という言葉を言われた時の気持ちや言ってしまう理由について問いかけ、ワークシートに記入する時間を設ける**<br>「皆さんは、『早くして』と言われたことはありますか？」<br>「『ある』という人は、どんな時に言われたか、言われた時どんな気持ちになったか、ワークシートの１番に記入しましょう。」<br>・ワークシートの１番に記入する。<br>★言われた場面：小さい頃、親から<br>出かける前<br>★気持ち：余計に慌ててしまう<br>そのおかげで間に合ってよかった<br>頑張って急いだつもりだったのに、嫌だった<br>・記入したことを発表する。<br>「では、自分が『早くして』と言ったことはありますか？」<br>「『ある』という人は、どんな時に言ったか、言った時どんな気持ちになったか、ワークシートの２番に記入しましょう。」<br>・ワークシートの２番に記入する。<br>★言った場面：友達がゆっくりしていた時<br>低学年の児童、弟や妹が遅かった | ○ここでは例として「早くして」という言葉を取り上げるが、他の嫌な気持ちになるかもしれない言葉（じっとして、静かにして等）を取り上げても良い。<br><br>○言われたことがない児童がいることも想定されるため、数名の児童を指名し、発表を聞くことで言われたことがある児童の経験や気持ちを共有できるようにする。<br>○多様な感じ方に気づかせるため、様々な意見も取り上げる。嫌だったという意見に偏った場合は、教師から聞いてみる。<br><br>○言ったことがない児童がいることも想定されるため、数名の児童を指名し、発表を聞くことで言ったことがある児童の経験や気 |

| | | |
|---|---|---|
| | ★気持ち：遅くてイライラしたけど、言いたくなかった<br>急がないと間に合わないから、仕方なかった<br>・記入したことを発表する。<br>「先生も時々、言ってしまうけれど、自分が言われたら嬉しくないし、言った後に後悔することもあります。」 | 持ちを共有できるようにする。<br><br>○言う側が悪いわけではなく、葛藤があることに気づかせる。 |
| (15分) | **4　『早くして』という言葉を減らす方法を考えるよう提案し、グループワークとワークシート記入の時間をとる**<br>「今日のテーマは過ごしやすい学校づくりでした。」<br>「友達同士や、低学年の子たちも嫌な気持ちにならないで過ごせるよう、どうしたら『早くして』という言葉を減らせるか考えます。グループでアイディアを出し合いましょう。」<br>・ワークシートの３番に記入する。<br>★「慌てなくていいよ」と言う<br>★余裕をもって準備できるよう、早めに声をかける<br>★タイマーや時計を見せる<br>★小さい子はゆっくりなものだから、待つ<br><br>**5　ワークシートに書かれたアイディアを共有する**<br>・グループごとに発表する。 | ○４名程度のグループを想定している。<br><br>○出された案を整理して板書する。 |
| まとめ<br>(10分) | **6　まとめと振り返りをする**<br>「この中で、皆さんができることはどれでしょう？」<br>★自分が良いと思ったことを口々に言う<br>「先生も気をつけます。」<br>・ふりかえりシートに記入する。<br>「ことばの使い方に皆が気をつけることで、過ごしやすい学校にすることができると思います。」<br>「他にも気づいたことがあれば言ってくださいね。」 | ○児童が実現できる改善方法につながるよう、必要に応じ補足をする。<br><br>○実態に応じ、家や学童でも活用できる内容であることを伝える。 |

## ワンポイントメモ

○児童から出される改善案は、一般的に望ましいとされる言動であることが想定されます。しかし、発達障害などによりそのような言動を取ること自体が難しい児童がいることも考えられるため、配慮が必要です（本時の例では、待つことが苦手、相手の気持ちを考えることが苦手など）。

○障害のある児童などは、自分を落ち着かせるために跳ねたりすることがありますが、そのような児童へ「早くして」のように押し付け的な言葉かけをしてしまうとますます落ち着かず、パニックになることもあります。そうした児童へ配慮することを想定してこのプログラムを活用することもできます。

○「早くして」という言葉自体は、必ずしも悪いわけではないと考えています。普段何気なく使っている言葉でも、場合によっては不快な思いをする人がいると気づくことを、このプログラムでは意図しています。

○誰もが過ごしやすい学級･学校にするためには､ことば以外にも､行動や物的環境を変えていくことが考えられます。“ことば”を､“行動”や“物的環境”に置き換えることで､学級や学校の実態に合わせたプログラムにすることができます。

【その他の展開例】

・「行動編」（例：廊下を走ることで困る人がいる）

・「物的環境編」（例：エアコン、バリアフリー、構造化など、不快や不便さを感じる人がいる）

○中学生、高校生向けのプログラムとしても発展させることができます。

中学生向けにするには、生徒の力で実現可能なもの（啓発ポスターを作成する等）に時間を設けて取り組ませることで生徒の学びを深めることが期待できます。その際、できる限り生徒自身の発意による活動となるよう留意しましょう。

高校生向けにするには、地域や社会の不便についても検討する機会を設けることで、生徒一人ひとりが社会をより良くしていく一員であるという意識を持たせることが期待できます。まとめた改善策を近隣住民や保護者の前で発表する、市へ提言する等の機会を設けることで、より学習意欲の向上を図ることが期待できます。

# ワークシート「誰もが過ごしやすい学級・学校にしよう～ことば編～」

年　　組　　番　　氏名

1．「早くして」と人から言われた時のことを思い出して書きましょう。
　○言われたのはどんな時ですか。

　○言われた時、どんな気持ちになりましたか。

2．「早くして」と自分が言った時のことを思い出して書きましょう。
　○言ったのはどんな時ですか。

　○言った時、どんな気持ちになりましたか。

3．「早くして」という言葉を減らすにはどうしたらいいか、グループで考えて書きましょう。

## ふりかえりシート「誰もが過ごしやすい学級・学校にしよう～ことば編～」

年　　組　　番　　氏名

1．今日の授業の感想を書きましょう。

2．これから自分にできることや、やってみたいことを書きましょう。

3．今日の授業内容のように、ことばや言い方など身の回りのことで、気づいたことや気になっていることがあれば書いてください。

# テーマ④「車いすが自由に利用できる学校・教室をつくってみよう」

## テーマについて

車いすを利用する人の思いに配慮する気持ちを育てるためのプログラムです。車いすの利用者がクラス内にいたり、来客として訪問したりする場合に、利用者が快適に過ごすことができる学校づくりについて考えます。

## 目標（ねらい）

車いすの利用者をはじめとして、どんな人でも快適に過ごすことができる学校や教室にするには、どうしたらよいのかについて、積極的に気づき、考えることができる。

| 配時 | 学習内容と学習活動 | 指導上の留意点 |
|---|---|---|
| 導入<br>(10分) | **1　前時のふりかえり**<br>実際に車いすに乗る体験をしてもよい。<br><br>**2　本時のテーマと目標を説明する**<br>「車いすはどんな時に使いますか？」<br>(想定される児童の反応)<br>★足を骨折した時<br>★事故や病気で足が動かなくなった時<br>★歳を取って、足が不自由になった時　など<br>「車いすはどんな人が使いますか？」<br>★骨折した人<br>★お年寄り<br>★車いすバスケの選手　など<br>「車いす自体は決して不便な道具ではありません。環境さえ整えば、とても便利な道具です。では、何が不便にしているのでしょうか。みんなで考えてみましょう。」 | ○前時の流れを簡潔に説明する。<br><br>○本時のテーマや目標をきちんと説明する。<br>○児童・生徒の自由な意見を募る。<br>車いす利用者に対して差別的な発言などもあるかもしれないが、車いすが日常でよく見かける道具であることやそれを必要とする人がいること、自分も使うことになるかもしれないことなどを理解させる。<br>学級にすでに車いすを使用する子がいる場合には、それが特別なことではなく、それ以外にも利用者が多くいることを理解させる。 |
| 展開<br>(20分) | **3　車いすを利用している人が不便を感じる場所やことがらについて考える**<br>「学校でのイベント（納涼祭、文化祭、授業参観など）があり、みなさんのおじいちゃんやおばあちゃんが、学校にいらっしゃいます。お年寄りの中には、杖をついている人や車いすを利用している人もいます。 | ○他の人が気づかないところにも目を向けよう。<br>○４人から６人程度の班で話し合わせ、出た意見をワークシートや模造紙等にまとめさせる。<br>○可能であれば、学校や教室内の不便な個所 |

| | | |
|---|---|---|
| | 車いすを利用している人にとって、この学校や教室での不便な場所やことがらを探して、その対応について、班で話し合ってまとめてみましょう。」<br>・班で話し合い、ワークシートにまとめる。 | などについて、フィールドワークを行ってもよい。<br>○児童・生徒が事前に車いすに乗る体験をしてみたり、その場に自由に触れる車いすが1台あったりすると、イメージがつかみやすい。車いすのたたみ方や押し方などについても簡単に説明すると理解が深まるだろう。<br>○「どうしたらよいか？」の対策についても班で話し合わせる。 |
| (10分) | **4　各班で出された意見について発表する** | ○各班で出された異なる視点について、コメントをするとよいだろう。 |
| まとめ<br>(5分) | **5　ふりかえりシートを書く時間を設ける**<br>「自分が、もし怪我をして車いすで通学しなければならないとしたら、学校や教室のどんなところが不便に感じるでしょうか。また、クラスの友達のどのような協力が必要でしょうか。みなさんの意見を書いてみてください。」 | ○個人の意見を書かせる。<br>○時間の都合上、ふりかえりシートの2番までは授業中に書き、3番以降は宿題にする。<br>○よい観点については、あとで取り上げる。 |

## ワンポイントメモ

○事前に車いす体験などを行い、車いすの操作についての基本を理解しておくとよいでしょう。
（車いす体験については、市町村社会福祉協議会にご相談ください）
○仮想の状況を想定するのではなく、具体的な行事等に関係した内容で実施するとよいでしょう。
○学校で不便な場所について考えることに関連して、校内または通学区域のハザードマップづくりなどを考えると、発展的な学習となります。
○車いすを特別なものではなく子どもたちに身近なものと捉えてもらうために「健康な人も車いすを使うと便利な場面はあるでしょうか。」などの発問をして、話し合わせる活動を行ってもよいでしょう。
○中学生や高校生の活動に発展させるためには、実施可能な範囲で実際にバリアフリー環境を作る活動や、可能ならば福祉機関や行政機関との話し合いをすることなども考えられます。

知的障害のある子が描いた絵（市川手をつなぐ親の会提供）

ワークシート「車いすのお客さんが不便に感じると思うところを探して、その対策を考えよう」

## 班

班のメンバー

| | 不便な場所とことがら | どんなふうに不便なのか<br>くわしく書いてみよう | どうしたら不便でなく<br>なるのか考えてみよう |
|---|---|---|---|
| 1 | | | |
| 2 | | | |
| 3 | | | |
| 4 | | | |
| 5 | | | |
| 6 | | | |
| 7 | | | |

## ふりかえりシート「車いすが自由に利用できる学校・教室をつくってみよう」

年　　組　　番　　氏名

1．班のみんなと協力して考えられましたか。

はい　　いいえ

2．だれのどんな意見が参考になりましたか。

3．自分が、もし怪我 ( けが ) をして車いすで通学しなければならないとしたら、学校や教室のどんなところが不便に感じるでしょうか。思いつくことを書いてください。

4．自分が、もし怪我をして車いすで通学しなければならないとしたら、クラスの友達のどのような協力が必要でしょうか。思いつくことを書いてください。

# テーマ⑤「音や声が聴こえにくい人の体験をしてみよう」

## テーマについて

障害のある人とのコミュニケーションの取り方にはどのような方法があるのか、体験を通して学びます。

聴覚障害体験は、聴こえにくいことに伴う不便や不自由を追体験するプログラムになりがちです。「聴こえにくいこと」の不便さ・気持ちを体験してみることは大事な経験ですが、このプログラムでは「できないこと」だけではなく、どうすれば意思疎通できるのか工夫すること、伝わった時の気持ちを感じることも目的としています。

## 目標（ねらい）

・ことば以外にも、お互いの言いたいことや気持ちを理解し合うことができる。
・伝わらない時のもどかしさや伝わった時のうれしさを感じることができる。
・「伝えたい・わかりたい」という気持ちが大事であること、自分たちにもできることがあることを考えられる。

| 配時 | 学習内容と学習活動 | 指導上の留意点 |
|---|---|---|
| 導入<br>（15分） | **1　前時のふりかえり** | ○前時の流れを簡潔に説明する。<br>例）聴覚以外の障害について学習する。<br>○グループに分かれて座る。 |
| | **2　本日の授業について説明する**<br>「今日は、耳が聴こえにくい人はどのようにコミュニケーションをとっているのか、いろいろ体験してみたいと思います。」 | ○聴覚障害者について、知っていることを子どもたちに聞いてみる。<br>○普段の私たちのコミュニケーションの手段について考えてみる。 |
| | **3　ジェスチャーゲーム**<br>「これから、言葉を使わないでお友達に言いたいことを伝えるゲームをしてみたいと思います。まず先生がやってみます。先生のジェスチャーは何を意味しているのか、考えてみてください。」<br>・先生のジェスチャーを当てる。<br>例）「カニ」「サル」<br>「では、皆さんの中から誰かジェスチャーをやってくれる人はいませんか。」<br>・児童（教師が２人選ぶ）は前に出て、教師から問題を受け取り、１人ずつジェスチャーで他の子どもたちに伝える。<br>例）「みかん」「ゾウ」「赤い花」<br>「今日はいいお天気です」<br>「私はバナナが好きです」　等<br>・ワークシートに答えを書く。<br>「やってみてどう感じましたか？」<br>・答える側、問題を出す側の児童それぞれが感想を発表する。 | ○ジェスチャーだけで伝えたいことが伝わる・伝わらないという感覚を学ぶ。<br>○１人目は簡単な問題でも良いが、２人目は伝えるのに少し工夫のいる問題にする。<br>○どこを、なにを見て情報収集したのか。<br>○伝える側は、どのようなことに気を付けて問題を出したのか。 |

| | | |
|---|---|---|
| 展開<br>(25分) | **4　音の出ないテレビを視聴する**<br>「では、次にみんなでテレビを見てみたいと思います。ただし、『音が聴こえにくいテレビ』です。これから、実際に番組を見てみますが、どのような内容か考えながら見てください。見終わったら、ワークシートに番組の内容について、自分なりに理解したこと・想像したことを書いてみます。その時に、どうしてそう思ったのか理由も記入するようにしてください。」<br>・番組を視聴する (3 分程度 )。<br>・視聴後、ワークシートに各自記入する。<br>「音の聴こえにくいテレビを見てどう思いましたか。」<br>・グループ内で感想を伝え合う。<br>「どのような内容だったか、グループで話し合ってみましょう。」<br><br>**5　各グループの意見を発表する**<br>「各グループではテレビの内容や、その理由についてどのような意見が出ましたか。いくつかのグループに発表してもらいましょう。」<br>・3 グループ程度発表する。 | ○テレビの内容は、お笑い、情報番組（池上彰氏の番組など）、ニュース、ドラマなど。<br>○音量は、言葉を聞き取れる児童が数名いるかいないか程度のごく小音にする。<br>○聴こえにくいことの不自由さだけでなく、聴こえにくいことでどのような気持ちになったか、体験する。<br><br>○情報は音声だけではないことに気付かせる。<br>○どうしてそう思ったのかという理由をふまえて考えさせるようにする。それが言葉以外の情報源であると考えられる。 |
| まとめ<br>(5分) | **6　まとめを行う**<br>①聴覚障害とは、どういう障害なのか、種類や人数などについて簡単に説明する（P.45 参照）。<br>②言葉や情報がうまく伝わらない・うまく伝えられなくて困ることや気持ちについて確認する（孤独、さびしい、つまらない、わからない、やる気が出なくなるなど）。<br>③聴こえにくくてもわかったこと、どのような工夫があればコミュニケーションがとれたのかを確認する。<br><br>**7　ふりかえりシートに記載する時間を設ける** | ○聴覚障害者は生まれつきなのか、全く聴こえないのか、話せるのかなどについて基本的な知識を確認する。<br>○聴覚障害者は（手話以外で）どのように日常生活の中で情報収集しているのか（視覚、観察、スマホ等）、どうすれば情報を伝え合いやすいか考えてみる。<br><br>○ふりかえりシートは時間がなければ宿題とする。 |

## ワンポイントメモ

○このプログラムから発展して、実際の聴覚障害者と関わってみる機会をつくることも大切です。
自分たちが授業でコミュニケーションをとる方法として考えたこと、やってみたことを試してみたり、当事者に実際の生活の中で困ること、意外に困らないこと、配慮してほしいことなどを聞いてみることで「聴こえない・聴こえにくい」ことの実際 ( 困りごとばかりでなく、ちょっとした工夫で聴こえる人と同じように暮らしている場面も多いです ) をイメージできると、それが具体的な援助行動のきっかけになるのではないでしょうか。

## ワークシート「音や声が聴こえにくい人の体験をしてみよう」

年　　組　　番　　氏名

1．ジェスチャーゲームの答え

○１人目の答え

○２人目の答え

2．テレビの内容について分かったことと、どうしてそう思ったのか理由を書いてみましょう。

| テレビの内容 | 理由 |
| --- | --- |
| | |

ふりかえりシート **「音や声が聴こえにくい人の体験をしてみよう」**

年　　組　　番　　氏名

1．聴こえにくくて困ること、私たちにできることはありましたか。

| | |
|---|---|
| 聴こえにくくて困ること | |
| 私たちにできること | |

2．今日の授業の感想を書きましょう。

# テーマ⑥「目の見えない人と一緒に学習することを考えよう」

## テーマについて

視覚障害の方と共に過ごす際に、子どもたちにもできる情報支援があることを伝えるためのプログラムです。

なお、一括りに視覚障害といっても、人によって見える・見えない程度は様々ですが、今回は全盲（全く見えない）に近い状態の方を想定したプログラムになっています。

## 目標（ねらい）

視覚障害の人と共に過ごす（今回は共に学習する）うえで必要な配慮が自分たちにできることに気付き、共に心地よく過ごせるように工夫することができる。

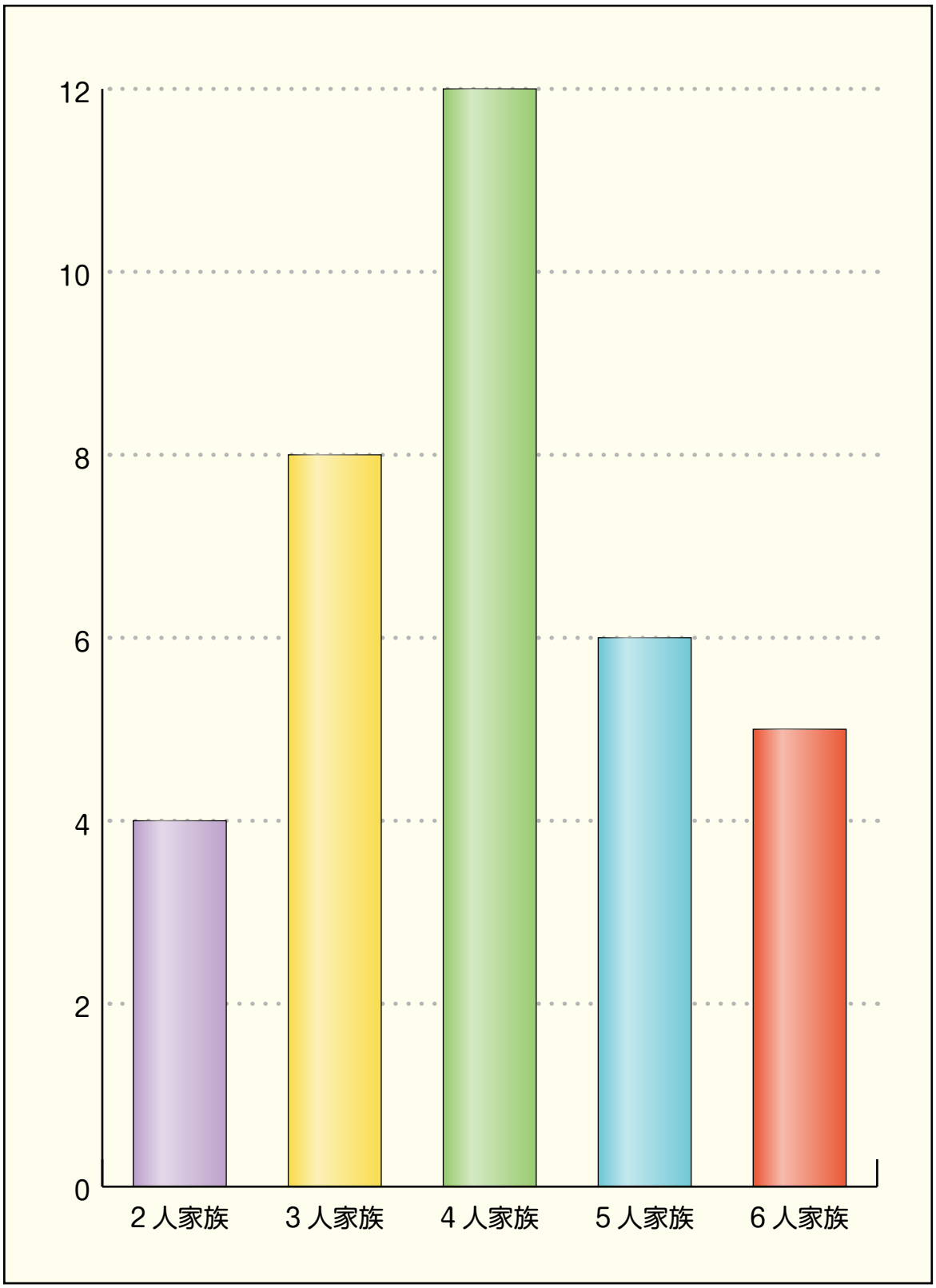
| 配時 | 学習内容と学習活動 | 指導上の留意点 |
|---|---|---|
| 導入<br>(5分) | **1　前時のふりかえりと導入**<br>「白い杖をついている人を見たことがありますか。それはどんな人ですか。<br>盲導犬を見たことがありますか。どんな人が利用するものですか。」<br>(想定される児童の反応)<br>★目の見えない人<br>「目の見えない方を見かけたことがありますか。どこで見かけましたか。」<br>★近所、駅。 | ○前時の流れを簡潔に説明する。<br>例）アイマスク（白杖）体験、その他の障害について学習する。 |
| | **2　本時のテーマ、目標を説明する**<br>「目の見えない、視覚障害のある方は、みなさんと同じようにいろいろなところにたくさんいますね。みなさんのお友達になることもあるかもしれません。<br>では、目の見えない方と一緒に過ごす時に、お互いに気持ちよく過ごすためにはどんな工夫が必要でしょうか。一緒に考えてみましょう。」 | ○本時のテーマや目標をきちんと説明する。 |
| 展開<br>(10分) | **3　児童がアイマスクをした状態で授業を行う**<br>クラスの半分にアイマスクを着用させてから、全員に資料のプリント（※ P.28 に掲載）を配布する。<br>・代表の児童一人もしくは教師が発表資料（※ P.29 に掲載）を読む。<br>・ワークシートの１番に感想を書く。 | ○アイマスクの代わりに、ハンカチなどで顔を覆ってもよい。<br>○アイマスクをしている児童としていない児童が隣同士でペアで座るようにする。<br>○発表資料の他に「児童に自由研究の発表をさせる」「通常の授業（理科など、表やグラフ等視覚的な情報が多くなるものが良い）を教師が行う」等を行っても良い。<br>○アイマスクをしていない児童がしている児 |

| | | |
|---|---|---|
| | | 童に発表内容を補足し始めることも想定される。自発的な行動は評価すべきだが騒がしくなり授業の妨げとなる可能性もあるため、状況に応じて発表中の私語を（予め）制限すること。 |
| (10分) | **4　体験した感想の発表を行う**<br>「目隠しをしていた人は、どんな風に感じましたか？」<br>★色を言われても分からなくて困った。<br>★数字をもっと具体的に言って欲しかった。<br>「目隠しをしていない人は、隣の友達を見てどう感じましたか？」<br>★困っているようだったので、教えてあげたかった。 | ○要点を板書する。 |
| (15分) | **5　工夫できる点について考える**<br>「では、どのように発表すれば良かったでしょうか。また、目隠しをしていない人には何ができたでしょうか。周りの人たちと話し合ってみてください。」<br>・ワークシートの２番にまとめる。<br>・何人かの児童が発表する。<br>★数字などをもっと具体的に発表する。<br>★発表の中で色や「あれ・これ」などという言葉が出てきたら、隣の人が教えてあげる。 | ○話し合い後に何人かに発表させる。<br>○必要に応じて、発表資料を児童に配布したうえで考えさせても良い。<br>○発表者ができる工夫についてだけでなく、隣に座る児童が支援できることについても考えさせる。 |
| まとめ<br>(5分) | **6　まとめを行う**<br>「発表する人が、発表を聞いてくれる相手のことを考えながら具体的に説明すれば、目が見えない人でも分かりやすくなることが分かりましたね。また隣に座っている人も、目が見えない人に分かりにくい部分を隣で説明することができます。そうすれば同じ発表を一緒に聞くことができますね。」<br>「今日は、目が見えないの人の例を出しましたが、どんな人と接する時でも、相手が困っていたら自分に何ができるか考えて行動することが大切です。」<br><br>**7　ふりかえりシートを書く時間を設ける** | ○発表者が的確な情報提供をするだけでなく、隣にいる児童の情報支援も大切であることを伝える。<br><br>○時間の都合上、ふりかえりシートの１番を授業中に書き、２番は宿題にする。 |

## ワンポイントメモ

○アイマスク（白杖）体験を行ったあとにこの授業を行うことも有効です。児童が、自分たちにできることを身近な例をもとに具体的に考えるきっかけとなります。

## クラスのみんなの家族の人数



ぼくは、このクラスのみんなが何人家族なのかを調べて、ぼうグラフにしました。
みんなに配ったこのプリントを見てください。そこに書いてあるとおり、４人家族が一番多いことが分かりました。
おどろいたのは、グラフの赤いところの人数が、ぼくが予想していたよりも多かったことです。
友だちの佐藤さんが、６人家族だと言っていました。そこで、だれといっしょに住んでいるのか聞いてみたら、
「お父さん、お母さんと、おじいちゃん、おばあちゃんと、弟といっしょに住んでいる。」
と、言っていました。ぼくは４人家族で、おじいちゃんとおばあちゃんとはいっしょには住んでいません。だから、
「グラフの右側の方の人たちは、おじいちゃんやおばあちゃんと一緒に住んでいる人が多いのかな。」
と、思いました。
クラスのみんなの家族の人数は、こんなにバラバラなんだということが、とてもよく分かりました。

## ワークシート「目の見えない人と一緒に学習することを考えよう」

年　　組　　番　　氏名

1．目かくししている人としていない人がペアになって、発表を聞きましょう。

（1）目かくしをしていた人は、どのように感じましたか。

（2）目かくしをしていなかった人は、目かくしをしている人の様子を見て、どのように感じましたか。

2．目の見えない人と一緒に発表を聞く時には、どのような工夫をすると良いでしょうか。
まわりの人たちと一緒に考えてみましょう。

| | |
|---|---|
| 発表する人が<br>工夫できること | |
| 目の見えない人の<br>となりに座っている人が<br>工夫できること | |

ふりかえりシート **「目の見えない人と一緒に学習することを考えよう」**

年　　組　　番　　氏名

1．授業を受けて、感じたことを書きましょう。

2．あなたは、目の見えない友達と一緒に給食を食べることになりました。友達が困るかもしれないことと、あなたができることは何でしょうか。思いつくことを書きましょう。

| | |
|---|---|
| 友達が困るかもしれないこと | |
| あなたができること | |

# テーマ⑦「いろいろな人の感覚や気持ちを理解しよう」

## テーマについて

発達障害などによる感覚過敏 ( 知覚過敏、聴覚、臭覚、触覚等の過敏 ) をもつ児童について理解し、感覚過敏の児童が何に困っているのか、どうしたらその子も含めたみんなが快適に過ごすことができるクラスづくりができるのかについて考えるプログラムです。NHK の番組の視聴を元に考えさせる活動を行います。

## 目標（ねらい）

感覚は人それぞれ異なるものであることを理解し、だれでも同じように快適に過ごすことのできるクラスづくりに関して、積極的に考えることができる。

| 配時 | 学習内容と学習活動 | 指導上の留意点 |
|---|---|---|
| 導入<br>(10分) | **1　前時のふりかえり**<br><br>**2　本時のテーマ、目標を説明する**<br>「このクラスには、視力のよい人もわるい人もいますが、どのように困っていて、どのように対応すればよいでしょうか。」<br>(想定される児童の反応)<br>★黒板の字が見えづらく、席替えの際に座席を前にしているなど。<br>「視力も含めて、感覚にはどのようなものがあるでしょうか。」<br>★色覚、聴覚、触覚、臭覚、味覚等 | ○前時の流れを簡潔に説明する。<br>例）本冊子のテーマ①～③を実施する。<br>○本時のテーマや目標をきちんと説明する。<br>○児童・生徒の自由な意見を募る。<br>誰もが感覚を持っており、それは異なっていることについて理解させる。 |
| 展開<br>(20分) | **3　NHK for School「u&i」第 2 回「授業に集中したいのに…」(10 分間 ) を視聴する**<br>(http://www.nhk.or.jp/tokushi/ui/?das_id=D0005190171_00000)<br>・ワークシートの 1 番に感想を書く。<br>・何人かが感想を発表する。<br><br>**4　話し合いを行う**<br>「例えば、クラスで友達と話していても、それ以外の人の声が気になって、友達の声と同じくらい敏感に聞こえてしまう人もたくさんいます。そんな人は、こんなに静かな教室で先生がその人の名前を呼んでも、うるさくて気づかないかもしれません。 | ○視聴する時間がとれない時は、NHK for School「ふつうってなんだろう？」#4「フミヤのふつう」(2 分間 ) または #5「ナオキのふつう」(2 分間 ) を視聴する。<br><br>○他の人が気づかないところにも目を向けよう。<br>○ 4 人から 6 人程度の班で話し合う。<br>○個人の問題を出すことで別な問題に発展することもあるので注意する。<br>○「周囲の音が大きく聞こえてしまい、会話 |

| | | |
|---|---|---|
| | 人の感覚は様々で、受け取っている情報はみな違います。<br>自分の感覚が敏感や鈍感で困っていることはないでしょうか。どんな人でも過ごしやすいクラスを作るためには何ができるでしょうか。」<br>・班で話し合いを行い、ワークシートの２番に書く。 | や授業に集中できない」などの具体的な例をもとに話し合わせ、対策を考えさせてもよい。 |
| (5分) | **5　各班で出した意見について発表する** | ○各班で出された異なる視点について、コメントをするとよいだろう。 |
| まとめ<br>(10分) | **6　ふりかえりシートを書く時間を設ける**<br>「自分では気づいていないけれども、ほかの人と感覚が異なる部分はたくさんあるものです。それと同様に考え方が異なる部分もたくさんあります。これは別に問題ではなく、当たり前のことです。それぞれの人の違いをクラスで生かすにはどうしたらよいでしょうか。みなさんの意見を書いてみてください。」 | ○個人の意見を書かせる。<br>○授業中に書ききれない分は宿題とする。<br>○よい観点については、あとで取り上げる。 |

## ワンポイントメモ

○感覚過敏をクラス内の特定の個人にだけ当てはまるような特徴として取り上げるのではなく、誰もが様々な特徴や凸凹（感じ方の程度を含む様々な違い）を持っていることを伝え、それに対応する社会性を育成することを意識してください。

○中学生や高校生で更に発展的な活動を行う場合、どのような感覚過敏や特徴などがあるのかについて調べ学習などを事前に行ってもよいでしょう。

○ NHK for School の２分アニメシリーズ「ふつうってなんだろう？」（http://www.nhk.or.jp/tokushi/ui/origin/anime/）を元にした話し合いの活動を考えてもよいでしょう。

知的障害のある子が描いた絵（市川手をつなぐ親の会提供）

## ワークシート「いろいろな人の感覚や気持ちを理解しよう」

年　　組　　番　　氏名

1. ビデオの内容について感想を書いてみましょう。

2. クラスでビデオの内容と似たようなことを感じたことはないでしょうか。どんな人でも過ごしやすいクラスを作るためのアイデアを出してみましょう。

## ふりかえりシート「いろいろな人の感覚や気持ちを理解しよう」

年　　組　　番　　氏名

1．班のみんなと協力して考えられましたか。

はい　　いいえ

2．だれのどんな意見が参考になりましたか。

3．自分の感覚や考え方がほかの人と異なっていて、困ったことはありませんか。

4．みんなが異なる感覚や考え方を持っているのは当たり前のことです。このことをクラスで生かすためにはどうしたらよいでしょうか。思いつくことを書いてください。

# テーマ⑧「特別支援学校（知的障害）との交流をしよう」

## テーマについて

地域には様々な人がいること、様々な人が共に暮らすのは普通のことだと気づくためのプログラムです。

また、普段接する機会が少ない特別支援学校の児童が共に生きる存在であることに、気づいてほしいと考えています。

## 目標（ねらい）

・知的障害について理解し交流を通して様々なコミュニケーションの方法があることに気づくことができる。
・特別支援学校の児童と自分たちが共に楽しく過ごすための工夫や配慮を考えることができる。
・活動を共にして感じたこと、気づいたことを共有し、考えを深めることができる。

## プログラム全体の計画

(1) 事前学習（2 時間）
・特別支援学校と在籍する児童について知る：ビデオ等を用いながら紹介する。知的障害の特徴やコミュニケーションの取り方などを伝える。
・交流の目的を知る
・当日の活動について理解し、共に楽しく過ごすための工夫や配慮を考える
・当日に向けた準備をする
(2) 交流当日（1 時間）（本時）
(3) 事後学習（1 時間）
・活動を振り返る：写真やビデオを用いる
・ふりかえりシートに記入しクラスで共有する：児童が困ったことや嫌だと感じたことも、さらに考え理解を深める手がかりになるので、児童が正直に感想を書けるよう配慮する。感想が出にくい場合は、楽しかったか、コミュニケーションはとれたか、ゲームの工夫は役にたったかなどいくつかの観点を提示する。
・特別支援学校の児童に宛てて手紙を書く

| 配時 | 学習内容と学習活動 | 指導上の留意点 |
|---|---|---|
| 導入<br>(7分) | **1　はじめの会**<br>・司会の児童の声かけで、はじめの挨拶をする。<br>・本時の予定を確認する。担当の児童は予定表を用いて説明する。<br>・各学校の代表者が挨拶をする。 | ○特別支援学校と事前に打ち合わせをし、集合時の隊形、司会や担当の児童を決めておく。司会等の役割は小学校の児童に限らないことに留意する。<br>○予定を知ることで安心して参加しやすくなることを、事前学習または事後学習で扱う。 |
| 展開<br>(8分) | **2　自己紹介**<br>・特別支援学校と小学校の混合 6 名程度のチームに分かれ、一人ずつ挨拶と自己紹介をする。<br>（想定される児童の反応）<br>★特別支援学校の児童には、言葉が話せない子も、自分たちと同じように自己紹介できる子もいる。<br>★ゆっくり話したら伝わった。<br>★自己紹介カードを見てもらえた。<br>★話を聞いてくれない子がいたけど、名前を呼んだらこっちを見てくれた。 | ○挨拶がコミュニケーションにおいて重要であること、ゆっくり、はっきり話すこと、名札や自己紹介カードを用いることを、事前学習で扱っておく。<br>○教師と障害のある児童との関わり方を、児童が見ていることを自覚する。 |

| | | |
|---|---|---|
| (20分) | **3　チーム対抗ゲーム「風船バレー」**<br>・ルールの説明を聞く。<br><br>・コートに分かれ、ゲームを開始する。<br>・「全員が１回、風船に触ってから返球する」など、事前に考えた工夫を取り入れてゲームを行う。<br>・名前を呼ぶ、応援する、ハイタッチで讃えるなどコミュニケーションを取りながらゲームを行う。<br>★ルールやコミュニケーションを意識し活動する。<br>★勝つために一生懸命になる。<br>★ゲームに参加しなかったり、風船を落としてしまったりする子がいて困惑する。<br>★作戦を立てる。<br>・ゲームを終了する。<br>・結果の発表を聞く。<br><br>・片付けをする。<br>★特別支援学校の児童に声をかける児童がいる。 | ○風船が苦手な児童がいる場合は、柔らかく大きめのボールなどで代用する。<br>○手本や視覚的手がかりを活用しながら説明する。<br>○特別支援学校とルールや手続きを事前に共有しておく。<br>○ゲームの工夫は特別支援学校の児童が理解し参加しやすくなり、また小学校の児童自身が楽しむためのものとして機能していたか、事後学習で振り返るようにする。<br>○児童の参加の程度やゲームの進行状況等を見ながら、適宜アドバイスをする。<br><br>○特に負けたチームは、どうしたら勝てるようになるか考えることを事後学習で扱う。<br>○小学校の児童ばかりが片付けをすることのないよう、適宜アドバイスをする。<br>○片付けに特別支援学校の児童も参加できていたか、事後学習で振り返る。 |
| まとめ<br>(10分) | **4　終わりの会**<br>・集合する。<br>・数名の児童は感想を発表する。<br>★一緒にゲームができて楽しかった。<br>★次は勝ちたい。<br>・司会の児童の声かけで、終わりの挨拶をする。<br>・チームで一緒になった児童を中心に、個々に挨拶をして解散する。 | ○数名の児童を指名する。<br>○発表の中で重要な気づきがあった場合は全体で確認する。<br>○発表した児童を称賛する。 |

## ワンポイントメモ

○小学校だけでなく特別支援学校の児童にとっての学びも十分考慮した上で実施しましょう。例えば、「地域の人と交流する」「自分なりの方法でコミュニケーションをとる」「役割遂行」といった特別支援学校児童の目標例が考えられます。
○交流先の特別支援学校の児童について、教師が理解を深めておくことが必要です。
○このプログラムや教師間の連携を通して、通常学級の教師は特別支援学校の児童への理解を深め、一緒に活動しお互いに楽しむにはどうすればいいかを学ぶことができます。
○「一方が訪問する／される」関係にならないように、また受け入れの負担が一方の学校に偏らないように、訪問の計画を立てましょう。
○小学校、特別支援学校の児童双方にとって、交流は継続して行うことが望ましいと考えられます。
○当日の活動例として、芋掘り、カレーづくり、じゃんけん列車、ペットボトルボウリング、ボッチャ、特別支援学校の児童が日頃行なっている活動などが考えられます。
また、活用内容を変えることで、知的障害以外の特別支援学校や、高齢者施設との交流に応用することもできます。
○事前、事後の交流の手段として手紙以外に、顔が見え声が聞けるテレビ電話等の手段が考えられます。

ふりかえりシート **「特別支援学校との交流」**

年　　組　　番　　氏名

1．　交流の感想を書きましょう。

2．　今日、クラスのみんなの感想を聞いて考えたことを書きましょう。

3．　次の交流でしてみたいことや、自分にできる工夫を考えて書きましょう。

Pick UP

# 市町村社会福祉協議会による
# 福祉教育の実践例

福祉とは「幸せ」や「幸福」を意味しています。

福祉教育とは、「人の多様性を認め、生きづらさを抱えている人の立場に立ち、共に幸せに生きられる社会をつくる人を育てること」といえます。

福祉教育では学習素材として「社会福祉問題」を取り上げています。歳をとっても障害があっても差別されることがなく、不便を強いられることもなく、健常者と同じように快適で充実した生活を送るには社会はどう変わればいいのか、そのために何ができるのかを考え、行動できる人を育てるため、社会福祉協議会も学校の福祉教育に協力しています。

大切なことは、子どもたちが障害のある人を「遠い存在」、「かわいそうな人」などと一方的に誤った捉え方をしないように、実際に障害のある人から普段の暮らしのお話を聞いたり、一緒になってゲームをしたり、楽器を演奏したり、双方向で触れ合える取り組みを行うことです。そうすることで、子どもたちは違いを感じながらも差別や偏見ではなく、障害のある人を身近な存在として認め、共に生きていく姿勢が身に付きます。

社会福祉協議会では、学校の先生と企画段階から福祉教育のプログラムを作り、共同実践したいと考えています。ぜひ学校所在の市町村社会福祉協議会の福祉教育担当職員へ御相談してください。

## ■社会福祉協議会がお手伝いできること

### ◎実施内容を一緒に考えます

先生から授業のねらいや時間を伺いながら、障害者（家族）のゲストティーチャーや疑似体験補助ボランティアなどの調整・派遣も含めてご相談に応じ一緒に考えます。

### ◎提供できるプログラム（障害分野以外を含む）

※以下は例示です。社会福祉協議会によって実施内容が異なります。詳しくは学校所在の市町村社会福祉協議会へご確認ください。

①福祉とボランティア活動について
②肢体不自由について（車いす体験）・・・車いすの貸出しもできます
③高齢者について（高齢者疑似体験）・・・疑似体験セットの貸出しもできます
④聴覚障害について（手話通訳者を介した聴覚障害者からのお話、手話体験）
⑤視覚障害について（視覚障害者のお話、盲導犬との交流、点字体験、ガイドヘルプ体験）
⑥認知症サポーター養成講座
⑦地域の高齢者との交流
⑧赤ちゃん人形のお世話・抱っこ体験
⑨妊婦体験
⑩施設体験（障害者支援施設や特別支援学校の見学・障害者との交流）
⑪障害者スポーツ体験（室内スポーツ、パラリンピック種目）
⑫福祉の仕事に携わる方からのお話
⑬福祉出前講座の実施（障害者、高齢者、原爆被爆者など当事者団体の講師の派遣調整）
⑭ DVD 視聴（障害者の生活や働く様子など）

# 福祉教育プログラムの例

## 東金市社会福祉協議会

### テーマ「ボランティア活動とは」

講師：市社協ボランティアセンター職員

| プログラム（約６０分・４５分も可） | 内　容 |
|---|---|
| お話（２０分程度）<br>「ボランティア活動とは」 | 「ボランティア」の言葉の意味など基礎的なお話と、市で行われている具体例を紹介する。 |
| グループワーク①（２０分程度）<br>「これってボランティア？」<br>※グループは６名程度 | 「目の見えない方を道案内した」「福祉施設に行って踊りを披露した」「何でもやってあげるのはボランティア？」「お金やポイントをもらうのはボランティア？」などの例を基にそれが「ボランティア」なのかどうかグループで話し合ってみる。 |
| グループワーク②（２０分程度）<br>「感じたままに話してみよう」 | 様々な写真を見て何をしている写真なのか、それぞれが感じたままにグループ内の仲間に話してみる。人によって感じ方や考え方に違いがあり、それを認め合うことが、皆が幸せに暮らすために大切であることを知る。 |

### テーマ「肢体不自由について」

講師：東金市身体障害者福祉会ほか

| プログラム（約６０分・４５分も可） | 内　容 |
|---|---|
| お話（２０分程度）<br>「肢体不自由について」 | 日常の生活について（不便なことは何か、どんな工夫をして暮らしているか、みんなにしてほしい事・してほしくない事など）肢体不自由の方からの話を聞く。 |
| 車いす体験（４０分程度） | ２人１組になって車いす介助体験、乗車体験をする。段差や曲がり角、でこぼこ道、トイレなどの簡単なコースを体験する。 |
| 質問タイム | 障害者の趣味や嗜好などを質問するなかから、障害者を「特別な人」から「障害という個性のある自分達と同じ人」などと感じて気持ちが変化していく。 |

## 柏市社会福祉協議会

### テーマ「視覚障害について」

講師：市社協福祉教育担当職員、当事者団体（視覚障害団体）、福祉教育ボランティア

| プログラム（４５分×２コマ） | 内　容 |
|---|---|
| 導入（１５分） | 「ふくし」とは何か？身近なところから「ふくし」を考える |
| 団体（参加者）紹介（５分） | 当事者団体の概要と参加者の自己紹介（一言） |
| 当事者からのお話（２０分） | 視覚障害について講演（テーマ例：視覚障害者の日常生活について） |
| 障害体験（３５分） | アイマスクと白杖を使用して、会場内の歩行や用紙に名前を書く、物を触ってみる、お金を数えてみる等を実施。講演内容を実感できる内容で体験を実施する。 |
| まとめ（１５分） | 視覚障害についてわかったこと、気づいたことを振り返り、同じ地域で暮らす人としてお互いの「ふくし」を実現するために、自分だったらどう思うか、自分にできることは何かを考える。 |

### テーマ「障害当事者との交流と体験」

講師：市社協福祉教育担当職員、当事者団体、福祉教育ボランティア

| プログラム（４５分×３コマ） | 内　容 |
|---|---|
| 導入（１５分） | 身近なところから「ふくし」を考え、障害とは何かを考える。 |
| 団体（参加者）紹介（１５分） | 当事者団体の概要と参加者の自己紹介（一言） |
| DVD で学ぶ（２５分） | 発達障害や知的障害、身体障害等について学ぶ（質疑応答含む） |
| ふれあい体験①（３０分） | ボッチャで交流する。<br>生徒と障害当事者の混合チームを作り、チーム対抗戦を行う。 |
| ふれあい体験②（３５分） | 福祉体験をしながらボッチャで交流する。<br>アイマスク、車いす、高齢者体験グッズ（一部）を使用して障害者体験をしつつ、生徒と障害当事者の混合チームで対抗戦を行う。 |
| まとめ（１５分） | 障害者との交流で、自然としていた言動を振り返り、障害の有無に関わらず、誰もが自分らしく暮らしていくために大切なことを考える。 |

## 鴨川市社会福祉協議会

### テーマ「募金活動について」

講師：社会福祉協議会職員

| プログラム | 内　容 |
|---|---|
| 募金について（１０分～３０分） | 自分たちの募金がどんなことに役立てられているのかを知り、募金が地域を良くする取り組みであることを学ぶ。<br>※要望に応じて昼休みや放課後に実施。 |
| ボランティア体験学習 | 実際に寄付を呼びかける「募金ボランティア」を体験することで、ボランティアについて身近に感じることができる。<br>※学校主体の取り組み。社協は街頭募金を行う際の調整と、実施主体となった児童会・生徒会・委員会などへの受けとり訪問を実施。 |

### テーマ「フードバンク・フードドライブについて」

講師：NPO法人フードバンクちば

| プログラム | 内　容 |
|---|---|
| 講演会（６０分） | フードバンク、フードドライブについて。<br>（食品の廃棄の問題等をクイズ形式で分かりやすく伝える） |
| フードドライブ（食品の寄付）活動 | 児童生徒会主催の全校集会等で、フードドライブ（食品の寄付）活動を呼び掛け、児童生徒の主体的な活動を促進する。<br>「もったいない」の気持ちから児童生徒が自分にできることを考え、行動につなげる。<br>※学校主体の取り組み。社協は学校・ＮＰＯ間の調整を実施。 |

※フードバンク：安全に食べられるのに包装の破損や過剰在庫、印字ミスなどの理由で、流通に出すことができない食品を企業などから寄贈していただき、必要としている施設や団体、困窮世帯に無償で提供する活動。
※フードドライブ：食品を収集する方法の一つで、食品関連企業からではなく、一般家庭から集める活動のこと。

## 市川市社会福祉協議会

### テーマ「車いすでの生活について」

講師：電動車いす利用肢体不自由者、社会福祉協議会職員

| プログラム（約６０分・４５分も可） | 内　容 |
|---|---|
| お話（２０分程度）<br>「車いすでの生活について」 | ※事前学習として車いすや障害について学んでおく。<br>日常の生活について、当事者からの話を聞く。<br>（趣味や旅行の話など、車いすでも何でもできることを伝えてもらう） |
| 車いす体験（３０分程度） | ４人１組になって車いす介助体験、乗車体験をする。段差や曲がり角、でこぼこ道、トイレなどの簡単なコースを体験する。<br>※当事者が同席し、体験者が事前に話を聞けることにより、集中して中身のある取り組みになる。 |
| 質問タイム | 困っていることは何か、電動車いすの仕組み等 |
| 感想・ふり返り | 自分たちにもできることを考える |

※事後学習で学校周辺を車いすで回り「バリアマップ」を作成した学校もあります。

車いすで外に出て、デコボコしている場所や段差など、車いすの方や目の不自由な方等が通りにくい場所を調べ、それをマップに落とし込み、児童が直接市役所に改善の要望を行いました。

総合的な学習の時間等を活用して実施。事前学習から事後学習まで全体で４～５時間でした。

## その他県内社会福祉協議会の例

### テーマ「社会福祉協議会のお仕事について」

講師：市社協福祉教育担当職員

| プログラム（４５分×１コマ） | 内　容 |
|---|---|
| 導入（５分） | 自己紹介（福祉の仕事に就いたきっかけなど） |
| 社会福祉協議会の事業内容の説明（１０分） | 誰もが安心して暮らせる「福祉のまちづくり」にむけて、社協が行う各事業（在宅福祉事業、児童福祉事業、高齢者福祉事業、障害福祉事業、相談事業、生活福祉資金貸付事業、ボランティアセンター等）の説明 |
| 現在の仕事の話（１０分） | やりがいを感じたエピソードを中心に、利用者の笑顔や感謝の言葉にはセールスやお客の数等の数字で表せぬ魅力があること等を伝える。 |
| 様々な仕事について（１５分） | 子どもたちに仕事の種類や仕事（特に福祉）に必要な資格を説明。<br>子ども達に将来就きたい仕事を考えてもらい発表してもらう。 |
| まとめ（５分） | どんな仕事にもやりがいがあり、働くことの魅力を伝える。<br>福祉の仕事に就かなくても、地域住民として福祉の充実のために自分にあったボランティア活動に取り組んでほしいことなどを伝える。 |

# 本冊子で取り上げた障害について

ここでは、本冊子で取り上げた障害について、主な特性と、コミュニケーションを取る際の配慮の例について御紹介します。

障害のある人が持つ思いや強みは一人ひとり異なります。障害によって一律に対応を当てはめるのではなく、どのようにすれば心地よく過ごせるか、本人と周りの人とで共に考えることが大切です。

【出典：障害のある人に対する情報保障のためのガイドライン（平成２９年３月　千葉県健康福祉部障害福祉課）より抜粋】

## 肢体不自由の状態にある人

肢体不自由とは、四肢（手や足）、体幹などに麻痺や欠損などの障害がある状態をいいます。

上肢や体幹に機能障害があると、細かいものをつかみ握ること、字を書くこと、書類や冊子のページをめくること、小さなボタン、スイッチ、タッチパネル、キーボードやマウスを操作することなどに支障が生じる場合があります。

また、発声に関する器官の麻痺や不随意運動などにより、音声でコミュニケーションを取ることが困難な場合もあります。

**～主な特性と配慮のポイント～**

- ○ **車いすを使用している人のために、窓口や机などの構造・位置に配慮する。**
- ○ **その人に応じた読み書きの際の代読・代筆や手助けなどを行う。**
- ○ **移動、読み書き、会話などに他の人より時間を要することもあるので、時間に余裕を持って応対する。**
- ○ **移動そのものや食事・トイレなどに制約があることから、外出機会が限られがちになるので、情報を得にくくならないよう配慮が必要である。**

## 視覚障害のある人

視覚障害は、視力、視野など、「見る」機能についての障害です。以下のように、人によって見え方は様々です。

・全盲（まったく見えない）

・ぼやける、細かい部分がよくわからない

・視野障害（見える範囲が限定される）……周囲が見えず移動に障害があるが手元の文字は見える、文字は見えないが移動は可能である、など

・光覚障害……暗いところで極端に視力が低下する、あるいは他の人にはまぶしくない程度の明るさでも過敏になる

視覚から情報を得られず他の感覚を活用する人もいれば、適切な配慮や器具によって視覚の一部を活用できる人もいます。

先天的に障害のある場合と、視覚を活用して生活していた人が後天的に視力を失う場合とがあり、活用できる能力・手段と必要とされる配慮はその人の生い立ちや環境によっても異なります。

～主な特性と配慮のポイント～

○ 全盲の人は、音声や点字など、主に聴覚や触覚により情報を得ているので、その人に応じた方法で情報を提供する。
○ 弱視（ロービジョン）の人は、音声などのほか、拡大文字や専用機器などを利用して視覚からも情報を得ているので、その人に応じた方法で情報を提供する。
○ 点字は重要な情報伝達手段だが、中途失明者を中心に、点字の読み書きができない人も多くいるので、音声や電子データなど、点字以外でも情報を提供する。
○ 他の人による代読・代筆を利用することもあるので、必要としている範囲で提供する。なお、自署のみはできる人もいる。
○ 白杖や盲導犬を利用して単独で移動できる人もいるが、そのような人でも不慣れな場所では移動の際に案内や誘導を必要としている。
○ パソコンやスマートフォンの音声読み上げ機能を利用して情報を入手したり、入力した文章を送信したりできる。最近では視覚障害のある人にとっての重要な情報のやりとりの手段になってきているので、その人の状況に応じて活用する。

## 聴覚障害のある人

聴覚障害は、聴力を中心とする「聞く」ことについての障害です。

聴覚障害の状況は人によって異なり、全く聞こえない人も、補聴器なしで会話が聞き取れる人もいます。先天的に障害がある場合と、聴覚を活用して生活していた人が後天的に聴力を失う場合（中途失聴）とがあり、活用できる能力・手段と必要とされる配慮はその人の生い立ちや環境によっても異なります。

聴覚障害のある人のうち、手話を言語として日常生活又は社会生活を営んでいる人を「ろう者」といいます。

～主な特性と配慮のポイント～

○ 外見からわかりにくいため、声をかけたのに返事をせず無視されたと誤解されることもある。発声・発語できる人もいるが、そのために聴覚障害がない、聞こえていると誤解されることがある。
○ 発声・発語が困難な人は、音声以外の方法を使う必要がある。
○ 音声の代わりに文字や図などで情報を提供すると、視覚から情報が得られる。
○ 音声での会話以外に、手話、要約筆記、触手話、指点字、筆談、キュードスピーチなどの方法がある。複数を併用する場合もあるが、人によって利用できる方法は異なるため、障害のある人が複数いる場合にもお互いのコミュニケーションが行えるよう留意する必要がある。
○ 難聴者では、補聴器や人工内耳を利用して聴力を補う人もいる。音としては聞こえていても言葉として認識できないこともあるので、内容が伝わっているか確認するよう配慮する。軽度の難聴では、静かな場所では聞き取れても、騒がしい場所ではまったく聞き取れなくなることもある。
○ 読話が必要な人には、顔を近づけすぎず口の形が見やすい距離を確保する。
○ 補聴器を使っている人には、近づいて、正面から普通の大きさの声で話しかける。3 メートル以上離れると補聴器は音を拾わなくなる。
○ 片耳が聞こえにくい人には、正面か、聞こえる側から話しかける。相手が気づくような合図をしてから話しかけるとよい。

## 知的障害のある人

知的障害とは、先天的な原因又は発達期（おおむね 18 歳まで）において脳に障害が生じ、知的な働きが同年齢の人の平均と比べ遅れていることで、日常生活又は社会生活に支障が生じている状態をいいます。障害の程度により必要な援助の内容や量は異なります。

知的障害のある人は、複雑な事柄や抽象的な概念の理解が苦手です。こみいった文章や会話の内容を把握することが不得手なので、説明の方法に配慮をしましょう。

主な特性やそれに応じた配慮としては下記のようなものがあります。

ただし、人によって能力は異なり、また練習や訓練によってこれらの障害をある程度克服している人もいます。知的障害は個別性が高いので、あらかじめどのような配慮が必要か確認することが望ましいとされます。

**～主な特性と配慮のポイント～**

- ○ 漢字の読み書きや、買物のお釣りのやりとりのような計算が苦手な人もいる。
- ○ 人に質問したり、言葉で自分の気持ちを伝えたりすることが難しいため、状況に応じてコミュニケーションボードを活用するなど、その人の伝えたいことを理解するように努める。
- ○ 周囲の状況の理解、未経験のできごと、急な状況変化に対応することが難しいため、緊急時や災害時には特に配慮が求められる。
- ○ 一つの行動にこだわったり、同じ質問を繰り返したりすることがあるので、繰り返し丁寧に応対することが必要である。

## 発達障害のある人

発達障害とは、主に脳機能の障害であり、その症状が通常低年齢（18 歳くらいまで）で発現するもので、しつけや性格に起因するものとは異なります。発達障害のある人はコミュニケーションが苦手で、発達障害の適切な理解が得られずに周囲の不適切な対応が原因で生じる二次障害による困難を抱えている場合もあります。

感覚が過敏で苦しむ人もいますが、長所として活用できる場合もあります。

### ◆自閉症スペクトラム障害（ASD）

3 歳くらいまでに現れ、他人との社会的関係の形成の困難さ、言葉の発達の遅れ、興味や関心が狭く特定のものにこだわることを特徴とする行動の障害をいう。

呼びかけられても振り返らない、相手と視線を合わせようとしない、人の表情や感情を読み取れない、おうむ返しをする、独り言が多い、要望を言葉で伝えられずに人の手を引っ張るなど、他人との関わり方や会話に支障がある。

道順、手順、日課、物の置き場所などの決まりごとを変更すると不安を感じる。

知的発達の水準は様々で、知的発達や言葉の発達の遅れを伴わない場合もある。

人の気持ちを理解するのが苦手で、関心のあることばかり一方的に話す人もいる。

## ◆学習障害（LD）

全般的な知的発達に遅れはないものの、聞く、話す、読む、書く、計算する又は推論する能力のうち、特定のものの習得と使用に著しい困難を示す様々な状態を指す。適切な支援や配慮が用意されたことで学習に取り組めるようになる人もいる。

学習障害の場合、従来の方法では学習が困難である。学習できないのは本人の怠惰によるものではないので、努力不足と責めない。

## ◆注意欠陥多動性障害（ADHD）

年齢あるいは発達に不釣り合いな注意力や多動性、衝動性を特徴とする行動の障害で、社会的な活動や学業の機能に支障をきたすことがある。

忘れ物が多い、時間や物の管理ができない、集中力が続かない、じっと座っていられない、衝動的に行動するなどの障害があるが個人差が大きい。

**～主な特性と配慮のポイント～**

○ 相手の意図がくみ取りにくい
　例：自分の思っていることと相手の理解とが違っていることがわからない
　→ 説明者の意図が伝わっていない可能性を考慮して応対する

○ 言語的コミュニケーションが苦手
　例：会話を続けることが苦手で、比喩や冗談も文字通り受け止めてしまう
　→ 視覚情報で簡潔に伝える

○ 感覚過敏
　例：騒がしい場所が過度の刺激になる
　→ 落ち着いた環境を用意する

○ こだわりがある
　例：マナー・ルール違反が許せない
　→ こだわりを受け止めた上で適切に応対する

知的障害のある子が描いた絵（市川手をつなぐ親の会提供）

# 千葉県内の「キャラバン隊」一覧

キャラバン隊『空』の公演の様子

本書でいうキャラバン隊とは、知的障害・発達障害を持つ人との接し方について、疑似体験や体験談などで分かりやすく伝える活動をしている団体のことで、知的障害のある人の家族が主なメンバーとなっています。

神奈川県座間市で始まった活動で、今では全国各地で多くのキャラバン隊が多くの小学校、中学校、高校、大学などの学校や、地域の様々な集まり等で公演を行っています。

ここでは、県内のキャラバン隊をご紹介しますので、ぜひ学校の授業にお声掛けしてはいかがでしょうか。

（掲載許可の取れた団体のみ掲載しています）

（平成 31 年 2 月現在）

| 所在市町村 | 団体名（団体の母体） | 公演内容 | 活動範囲 | 謝礼 | 代表者名・連絡先 |
|---|---|---|---|---|---|
| 市川市 | キャラバン隊『空』<br>（市川手をつなぐ親の会） | ・言葉が通じない、見え方が違う、うまくできない時の気持ちを体験します。<br>・子育て体験談や絵本の読み聞かせ他（30 分～ 90 分） | 千葉県内・近隣都県 | 交通費程度 | 平野　緑<br>047-371-6996<br>090-3817-5278<br>mdr552001@yahoo.co.jp |
| 市原市 | キャラバン隊いちょう<br>（県立市原特別支援学校の PTA 有志） | ・自閉症について<br>・言葉がわからない通じない時の気持ち体験<br>・どんなふうにみえているの？シングルフォーカス<br>・手先を使うことが苦手な体験<br>・親の気持ちなど他 | 千葉県内他出張授業に出かけることが可能な場所ならどこへでも | 交通費程度 | 山本　喜代美<br>0436-36-9800<br>080-5523-4156<br>karvanichou-shougaikeihatsu@yahoo.co.jp |
| 千葉市 | キャラバン隊「ららら」<br>（市民を中心とした有志） | ・言葉が通じない、見え方が違う、うまくできない時の気持ちを体験します。<br>・子育て体験談や絵本の読み聞かせ他<br>・参加対象者の世代、立場に合わせて決めます。 | 千葉市内 | 交通費程度 | 池田　かおる<br>043-293-0138<br>kaoru_i@h2.dion.ne.jp |
| 野田市 | キャラバン隊「まめっこ」<br>( 野田市手をつなぐ親の会) | ・言葉が通じない、見え方が違う、うまくできない時の気持ちを体験します。<br>・子育て体験談や絵本の読み聞かせ他 | 千葉県内・近隣都県 | 原則無料 | 名代　ちよ子<br>04-7125-6849<br>080-3426-5761<br>sqwxk910@yahoo.co.jp |
| 松戸市 | 松戸キャラバン隊<br>「たねっこ」<br>（松戸手をつなぐ育成会） | ・障害理解のための各種寸劇<br>・言葉が不自由、見え方の違い、手先が不器用の各体験を通し、障害がある方の不便さ、生きにくさを体験していただく。 | 千葉県内・近隣都県 | 基本は無し、先方にお任せ | 岡部　美穂子<br>090-4622-2378<br>ushidamoo-39@ezweb.ne.jp |
| 八千代市 | キャラバン隊<br>『トリック・オ・ホリック』<br>（八千代市手をつなぐ親の会） | ・発達障害を持つ子ども達の気持ち（聞こえない・見えない・読めない・言葉が通じない・うまくできない時等）を体験します。<br>・子ども向け、大人向けがあります（30 分～ 90 分）。 | 千葉県内・近隣都県 | 交通費程度 | 春日　明子<br>kas0358@ksh.biglobe.ne.jp<br><br>八千代市手をつなぐ親の会<br>047-409-6436( 月・木・金の午前のみ)<br>yachiyo-oyanokai@apricot.ocn.ne.jp |

# 学校の授業で使用できる動画のご紹介

## NHK for School

http://www.nhk.or.jp/school/

○各教科の授業で使うことのできる番組や動画クリップを 9,000 本以上、ウェブ上で視聴することができます。
○各番組に、イラストやワークシートなどが用意されており、印刷してすぐに授業で活用することができます。
○学習指導案の例が用意されている番組も多く、授業を組み立てる際の参考としていただけます。

■ **お問い合わせ先：ウェブサイト「NHK for School」（www.nhk.or.jp/school/）の「ご意見・お問い合せ」**
**NHK ふれあいセンター（ナビダイヤル）0570-066-066**

---

## NHK アーカイブス「NHK ティーチャーズ・ライブラリー」

http://www.nhk.or.jp/archives/teachers-l/

○ NHK アーカイブスより授業で役立つ番組の DVD を厳選し、学校内での教育活動へ限定して無料で貸し出ししています。
○貸し出し先は、学校などの教育機関に限定します（コピー不可）。
○実際に利用する教員の方からお申し込みください。
○貸し出しは無料ですが、往復の送料は利用者負担となります。
○１回（１人）につき３タイトルまでの貸し出しで、貸し出し期間は最大１か月です。
○多くの番組には、現場の教師が執筆した「学習展開例」や「番組活用例」が添えてあり、授業を組み立てる際の参考にしていただけます。

■ **お問い合わせ先：NHK ティーチャーズ・ライブラリー事務局**
**電話 03-3462-7932（平日 10:00 ～ 18:00）**

---

## NHK 厚生文化事業団「福祉ビデオライブラリー」

https://www.npwo.or.jp/video/687

○ NHK で放送した福祉関連の番組と、NHK 厚生文化事業団が制作した DVD、約 500 種類を無料で貸し出しています。
○どなたでも利用できます。ただし、営利目的の利用はできません。
○貸し出しは１回の利用で４点まで。
○手元に１０日間置いて見ることができます。
○貸し出しは無料ですが、往復の送料負担が必要です。

■ **お問い合わせ先：NHK 厚生文化事業団「福祉ビデオライブラリー係」**
**電話 03-3476-5955（平日 10:00 ～ 18:00）FAX 03-3476-5956**

# 福祉教育に関する相談先（市町村社会福祉協議会一覧）

各市町村には社会福祉協議会（社協）があり、福祉教育を担当している職員がいます。福祉教育の進め方や内容に困った時には、ぜひお近くの社協に相談してみてください。

（平成 31 年 3 月現在）

| 市町村別相談窓口 | 郵便番号 | 住　　所 | 電話番号 | 疑似体験器具の貸し出し | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 車椅子 | 高齢者疑似体験セット | 白杖 |
| 千葉市社会福祉協議会<br>千葉市ボランティアセンター | 260-8618 | 千葉市中央区千葉寺町 1208-2<br>千葉市ハーモニープラザ B 棟 3 階 | 043(209)8850 | ○ | ○ | ○ |
| 千葉市社会福祉協議会<br>中央区ボランティアセンター | 260-8511 | 千葉市中央区中央 4-5-1<br>きぼーる 15 階 | 043(221)2177 | ○ | | |
| 千葉市社会福祉協議会<br>花見川区ボランティアセンター | 262-8510 | 千葉市花見川区瑞穂 1-1<br>花見川保健福祉センター 3 階 | 043(275)6438 | ○ | ○ | ○ |
| 千葉市社会福祉協議会<br>稲毛区ボランティアセンター | 263-8550 | 千葉市稲毛区穴川 4-12-4<br>稲毛保健福祉センター 3 階 | 043(284)6160 | ○ | ○ | ○ |
| 千葉市社会福祉協議会<br>若葉区ボランティアセンター | 264-8550 | 千葉市若葉区貝塚 2-19-1<br>若葉保健福祉センター 3 階 | 043(233)8181 | ○ | ○ | ○ |
| 千葉市社会福祉協議会<br>緑区ボランティアセンター | 266-8550 | 千葉市緑区鎌取町 226-1<br>緑保健福祉センター 2 階 | 043(292)8185 | ○ | ○ | ○ |
| 千葉市社会福祉協議会<br>美浜区ボランティアセンター | 261-8581 | 千葉市美浜区真砂 5-15-2<br>美浜保健福祉センター 2 階 | 043(278)3252 | ○ | ○ | ○ |
| 銚子市社会福祉協議会 | 288-0047 | 銚子市若宮町 4-8<br>市保健福祉センター内 | 0479(24)8189 | ○ | ○ | |
| 市川市社会福祉協議会<br>地域福祉・ボランティアセンター | 272-0026 | 市川市東大和田 1-2-10<br>市分庁舎 C 棟 1 階 | 047(320)4002 | ○ | ○ | ○ |
| 船橋市社会福祉協議会<br>ボランティアセンター | 273-0005 | 船橋市本町 2-7-8<br>市福祉ビル 3 階 | 047(431)8808 | ○ | ○ | ○ |
| 館山市社会福祉協議会 | 294-0045 | 館山市北条 402<br>市役所 4 号館内 | 0470(23)5068 | ○ | ○ | |
| 木更津市社会福祉協議会<br>ボランティアセンター | 292-0834 | 木更津市潮見 2-9<br>市民総合福祉会館内 | 0438(25)2089 | ○ | ○ | ○ |
| 松戸市社会福祉協議会<br>地域福祉推進課 | 271-0094 | 松戸市上矢切 299-1<br>市総合福祉会館内 | 047(710)2341 | ○ | ○ | ○ |
| 野田市社会福祉協議会 | 278-0003 | 野田市鶴奉 5-1<br>市総合福祉会館内 | 04(7124)3939 | ○ | ○ | |
| 茂原市社会福祉協議会<br>地域福祉課 | 297-0022 | 茂原市町保 13-20<br>茂原市総合市民センター | 0475(23)1969 | ○ | ○ | ○ |
| 成田市社会福祉協議会 | 286-0017 | 成田市赤坂 1-3-1<br>市保健福祉館内 | 0476(27)7755 | ○ | ○ | ○ |
| 佐倉市社会福祉協議会<br>ボランティアセンター | 285-0013 | 佐倉市海隣寺町 87<br>市社会福祉センター 2 階 | 043(484)6198 | ○ | ○ | |
| 東金市社会福祉協議会 | 283-0005 | 東金市田間 3-9-1<br>市保健福祉センター 2 階 | 0475(52)5198 | ○ | ○ | |
| 旭市社会福祉協議会 | 289-2712 | 旭市横根 3520<br>飯岡福祉センター内 | 0479(57)5577 | ○ | ○ | |
| 習志野市社会福祉協議会<br>ボランティア・市民活動センター | 275-0025 | 習志野市秋津 3-4-1<br>市総合福祉センター 2 階 | 047(451)7899 | ○ | ○ | ○ |
| 柏市社会福祉協議会<br>地域福祉課 | 277-0005 | 柏市柏 5-11-8 いきいきプラザ内<br>※平成 31 年 4 月～ 32 年 12 月（予定） | 04(7165)0880 | ○ | ○ | ○ |
| 勝浦市社会福祉協議会 | 299-5226 | 勝浦市串浜 1191-1<br>市保健福祉センター内 | 0470(73)6101 | | ○ | |
| 市原市社会福祉協議会<br>ボランティアセンター | 290-0075 | 市原市南国分寺台 4-1-4 | 0436(20)3100 | ○ | ○ | ○ |
| 流山市社会福祉協議会 | 270-0157 | 流山市平和台 2-1-2<br>市ケアセンター 3 階 | 04(7159)4735 | ○ | ○ | ○ |
| 八千代市社会福祉協議会<br>地域振興課・地域づくり係 | 276-0046 | 八千代市大和田新田 312-5<br>市福祉センター内 | 047(483)3021 | ○ | | ○ |
| 我孫子市社会福祉協議会 | 270-1166 | 我孫子市我孫子 1861 | 04(7184)1539 | ○ | ○ | ○ |
| 鴨川市社会福祉協議会 | 296-0033 | 鴨川市八色 887-1<br>市総合保健福祉会館 2 階 | 04(7093)0606 | ○ | ○ | |
| 鎌ケ谷市社会福祉協議会 | 273-0195 | 鎌ケ谷市新鎌ケ谷 2-6-1<br>総合福祉保健センター 5 階 | 047(444)2231 | ○ | ○ | ○ |

※疑似体験器具の貸し出し要件については、直接その市町村社協にお問い合わせください

（平成 31 年 3 月現在）

| 市町村別相談窓口 | 郵便番号 | 住　　所 | 電話番号 | 疑似体験器具の貸し出し | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 車椅子 | 高齢者疑似体験セット | 白杖 |
| 君津市社会福祉協議会 | 299-1152 | 君津市久保 3-1-1<br>市保健福祉センターふれあい館 3 階 | 0439(57)2250 | ○ | ○ | |
| 富津市社会福祉協議会 | 293-0006 | 富津市下飯野 2443<br>市役所内 | 0439(87)9611 | ○ | ○ | |
| 浦安市社会福祉協議会 | 279-0042 | 浦安市東野 1-7-1<br>市総合福祉センター内 | 047(355)5271 | ○ | ○ | ○ |
| 四街道市社会福祉協議会<br>地域福祉係 | 284-0003 | 四街道市鹿渡無番地<br>市総合福祉センター内 | 043(422)2945 | ○ | ○ | |
| 袖ケ浦市社会福祉協議会<br>地域福祉係 | 299-0256 | 袖ケ浦市飯富 1604<br>市社会福祉センター内 | 0438(63)3888 | ○ | ○ | ○ |
| 八街市社会福祉協議会<br>地域福祉推進班 | 289-1192 | 八街市八街ほ 35-29<br>市総合保健福祉センター 3 階 | 043(443)0748 | ○ | ○ | |
| 印西市社会福祉協議会 | 270-1325 | 印西市竹袋 614-9<br>市総合福祉センター内 | 0476(42)0294 | ○ | ○ | |
| 白井市社会福祉協議会<br>ボランティアセンター | 270-1492 | 白井市復 1123<br>市保健福祉センター内 | 047(492)5716 | ○ | ○ | |
| 富里市社会福祉協議会 | 286-0221 | 富里市七栄 653-2<br>市福祉センター 1 階 | 0476(92)2451 | ○ | ○ | ○ |
| 南房総市社会福祉協議会 | 295-0004 | 南房総市千倉町瀬戸 2705-6<br>ちくら介護予防センターゆらり内 | 0470(44)3577 | ○ | ○ | ○ |
| 匝瑳市社会福祉協議会 | 289-3182 | 匝瑳市今泉 6491-1 | 0479(67)5200 | ○ | ○ | ○ |
| 香取市社会福祉協議会 | 287-0001 | 香取市佐原ロ 2116-1 | 0478(54)4410 | ○ | ○ | |
| 山武市社会福祉協議会<br>ボランティア・市民活動センター | 289-1223 | 山武市埴谷 1868-14<br>山武福祉センター内 | 0475(89)2121 | ○ | ○ | ○ |
| いすみ市社会福祉協議会 | 299-4621 | 岬町東中滝 720-1　岬ふれあい会館内 | 0470(87)8857 | ○ | ○ | |
| 大網白里市社会福祉協議会 | 299-3251 | 大網白里市大網 131-2,133 合併 -1 | 0475(72)1995 | ○ | ○ | ○ |
| 酒々井町社会福祉協議会 | 285-0922 | 印旛郡酒々井町中央台 4-11<br>町役場西庁舎 1 階 | 043(496)6635 | ○ | ○ | |
| 栄町社会福祉協議会 | 270-1515 | 印旛郡栄町安食台 1-2　町役場 2 階 | 0476(95)1100 | ○ | ○ | |
| 神崎町社会福祉協議会 | 289-0221 | 香取郡神崎町神崎本宿 96<br>神崎ふれあいプラザ保健福祉館内 | 0478(72)4031 | ○ | ○ | ○ |
| 多古町社会福祉協議会 | 289-2241 | 香取郡多古町多古 777-1 | 0479(76)5940 | ○ | ○ | |
| 東庄町社会福祉協議会 | 289-0612 | 香取郡東庄町石出 2692-4<br>オーシャンプラザ内 | 0478(86)4714 | ○ | ○ | |
| 九十九里町社会福祉協議会 | 283-0104 | 山武郡九十九里町片貝 2910<br>町保健福祉センター内 | 0475(70)3163 | ○ | ○ | |
| 芝山町社会福祉協議会 | 289-1604 | 山武郡芝山町飯櫃 126-1<br>町福祉センターやすらぎの里内 | 0479(78)0850 | ○ | ○ | ○ |
| 横芝光町社会福祉協議会 | 289-1727 | 山武郡横芝光町宮川 11902 | 0479(80)3611 | ○ | | |
| 一宮町社会福祉協議会 | 299-4301 | 長生郡一宮町一宮 1865 | 0475(42)3424 | ○ | | |
| 睦沢町社会福祉協議会 | 299-4403 | 長生郡睦沢町上市場 921-1<br>むつざわ福祉交流センター内 | 0475(44)2514 | ○ | ○ | |
| 長生村社会福祉協議会 | 299-4345 | 長生郡長生村本郷 1-77 | 0475(32)3391 | | | |
| 白子町社会福祉協議会 | 299-4218 | 長生郡白子町関 92　町公民館内 | 0475(33)5746 | ○ | ○ | ○ |
| 長柄町社会福祉協議会 | 297-0218 | 長生郡長柄町桜谷 712<br>町福祉センター内 | 0475(30)7200 | ○ | ○ | |
| 長南町社会福祉協議会 | 297-0192 | 長生郡長南町長南 2110<br>町保健センター内 | 0475(46)3391 | ○ | ○ | |
| 大多喜町社会福祉協議会 | 298-0214 | 夷隅郡大多喜町新丁 163<br>老人福祉センター内 | 0470(82)4969 | ○ | ○ | |
| 御宿町社会福祉協議会 | 299-5102 | 夷隅郡御宿町久保 1135-1<br>町地域福祉センター内 | 0470(68)6725 | ○ | ○ | |
| 鋸南町社会福祉協議会 | 299-1902 | 鋸南町保田 560<br>町ボランティアセンター内 | 0470(50)1174 | ○ | ○ | |

※疑似体験器具の貸し出し要件については、直接その市町村社協にお問い合わせください

平成31年度 日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償!!

# ボランティア活動保険

全国200万人加入!!

●後遺障害もフルカバーなので安心です!!

## 保険金額

| 保険金の種類＼プラン | | | Aプラン | Bプラン |
|---|---|---|---|---|
| ケガの補償 | 死亡保険金 | | 1,040万円 | 1,400万円 |
| | 後遺障害保険金 | | 1,040万円（限度額） | 1,400万円（限度額） |
| | 入院保険金日額 | | 6,500円 | 10,000円 |
| | 手術保険金 | 入院中の手術 | 65,000円 | 100,000円 |
| | | 外来の手術 | 32,500円 | 50,000円 |
| | 通院保険金日額 | | 4,000円 | 6,000円 |
| | 特定感染症の補償 | | 上記後遺障害、入院、通院の各補償金額（保険金額）に同じ | |
| | 葬祭費用保険金（特定感染症） | | 300万円（限度額） | |
| 賠償責任の補償 | 賠償責任保険金（対人・対物共通） | | 5億円（限度額） | |

## 年間保険料（1名あたり）

| タイプ＼プラン | Aプラン | Bプラン |
|---|---|---|
| 基本タイプ | 350円 | 510円 |
| 天災タイプ(※)（基本タイプ+地震・噴火・津波） | 500円 | 710円 |

団体割引20%適用済／過去の損害率による割増引適用

（※）天災タイプでは、天災（地震、噴火または津波）に起因する被保険者自身のケガを補償します（天災危険担保特約条項）が、賠償責任の補償については、天災に起因する場合は対象になりません。

## 保険金をお支払いする主な場合

- 清掃ボランティア活動中、転んでケガをして通院した。（ケガの補償）
- 活動に向かう途中、交通事故にあって亡くなられた。（ケガの補償）
- 活動中、食べた弁当でボランティア自身が食中毒になって入院した。（ケガの補償）
- 家事援助ボランティア活動で清掃中、誤って花びんを落としてこわした。（賠償責任の補償）

# ボランティア行事用保険

（傷害保険、国内旅行傷害保険特約付傷害保険、賠償責任保険）

地域福祉活動やボランティア活動のさまざまな行事におけるケガ、賠償（主催者責任）を補償!!

## 保険金額

A・B・Cプラン共通（A・B・Cプラン共に熱中症危険補償特約セット）

| | 保険金の種類 | | 補償内容 |
|---|---|---|---|
| ケガの補償 参加者本人のケガ | 死亡保険金 | | 400万円 |
| | 後遺障害保険金 | | 400万円（限度額） |
| | 入院保険金日額 | | 3,500円 |
| | 手術保険金 | 入院中の手術 | 35,000円 |
| | | 外来の手術 | 17,500円 |
| | 通院保険金日額 | | 2,200円 |
| 賠償責任の補償 | 対人事故 | | 1名・1事故 2億円（限度額） |
| | 対物事故 | | 1事故 1,000万円（限度額） |

※賠償責任の補償の限度額は、補償の対象となるリスクの種類ごとに適用されます。

## 保険料（1名あたり）

団体割引15%適用済

※詳しい内容は、パンフレットをご覧ください。

| Aプラン（宿泊を伴わない行事） | | |
|---|---|---|
| A1の行事 | A2の行事 | A3の行事 |
| 1日 28円（最低保険料 560円） | 1日 126円（最低保険料 2,520円） | 1日 248円（最低保険料 4,960円） |

| Bプラン（宿泊を伴う行事） | | | |
|---|---|---|---|
| 1泊2日（2日間） | 241円 | 2泊3日（3日間） | 295円 |

| Cプラン（A1区分で宿泊を伴わない、かつ参加者が事前に特定できない行事） |
|---|
| 1日 28円（最低保険料 560円） |

## 送迎サービス補償

（傷害保険）

◆送迎・移送サービス中の自動車事故などによるケガを補償！

## 福祉サービス総合補償

（傷害保険、賠償責任保険、約定履行費用保険（オプション））

◆ヘルパー・ケアマネジャーなどの活動中のケガや賠償責任を補償！

●このご案内は概要を説明したものです。お申込み、パンフレット・詳しい内容のお問い合わせは、あなたの地域の社会福祉協議会へ●


団体契約者 社会福祉法人 全国社会福祉協議会

〈引受幹事保険会社〉損害保険ジャパン日本興亜株式会社 医療・福祉開発部 第二課
TEL：03（3349）5137
受付時間：平日の9:00～17:00（土日・祝日、12/31～1/3を除きます。）

取扱代理店 株式会社 福祉保険サービス
〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL：03（3581）4667 FAX：03（3581）4763
営業時間：平日の9:30～17:30（12/29～1/3を除きます。）


●この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約です。

〈SJNK18-13567 2019.1.16作成〉

**【参考資料】**

○社会福祉法人　愛知県社会福祉協議会　ボランティアセンター
「地域・学校・社協で進める福祉教育ハンドブック」

○社会福祉法人　長野県社会福祉協議会「福祉教育実践ガイド」

**【福祉教育プログラム＜障害編＞検討委員】**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 松戸市立河原塚小学校 | 校長 | 谷田部　幸子 | |
| 元 鎌ケ谷市立第三中学校 | 校長 | 鈴木　吉久 | |
| 千葉県立千葉高等学校 | 教諭 | 大橋　真也 | |
| 中核地域生活支援センターがじゅまる | 副センター長 | 宮本　正栄 | |
| 市川市社会福祉協議会 | 総務課長 | 川名　成和 | |
| 成田市社会福祉協議会 | 主査 | 松田　裕児 | |
| ＮＰＯ法人千葉市視覚障害者協会 | 副理事長 | 高梨　憲司 | |
| 市川手をつなぐ親の会　キャラバン隊『空』 | 代表 | 平野　緑 | |
| 千葉県健康福祉部障害者福祉推進課 | 共生社会推進室室長 | 小菅　健一 | |
| 千葉県教育庁教育振興部特別支援教育課 | 指導主事 | 鈴木　栄次 | |
| 順天堂大学　スポーツ健康科学部 | 先任准教授 | 松山　毅 | 委員長 |
| 千葉県立佐倉西高等学校 | 教諭 | 佐藤　知行 | 副委員長 |
| 東京成徳大学応用心理学部 | 准教授 | 別府　さおり | |

**事務局**

| | | |
|---|---|---|
| 千葉県社会福祉協議会　地域福祉推進部 | 部長 | 川上　浩嗣 |
| 千葉県社会福祉協議会　地域福祉推進部 | 副部長 | 佐野　将彦 |
| 千葉県社会福祉協議会<br>ボランティア・市民活動センター | 主任主事 | 菊地　望美 |

**データのダウンロードについて**

○本冊子のデータは、千葉県社会福祉協議会ホームページの、「ボランティア」のページからダウンロードすることができます。

○また、福祉教育についての詳しい説明や、福祉教育を行う際に大切な視点やポイントをまとめた「福祉教育を効果的に行うためのチェックリスト」を掲載した「福祉教育ハンドブック ACCESS&SUCCESS（改訂２版）」も同じページからダウンロードすることができます。

～授業で使える～
**福祉教育プログラム集＜障害編＞**

発行日　2019 年 3 月 31 日
発行所　社会福祉法人　千葉県社会福祉協議会
　　千葉県千葉市中央区千葉港４番３号
編　著　福祉教育プログラム＜障害編＞検討委員会

「福祉教育プログラム集」の発行には、一部共同募金の助成金を充当しています。